施設名

東京国立博物館

処理番号

0501 - 1

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1) 展示の充実 ①平常展 (1/3)

事業概要

展観事業の中核と位置づけ、特集陳列等の充実を図る。また、作品キャプションについて は全てに英語訳を付するとともに、時代背景等をわかりやすく伝えるために展示テーマご との解説の充実を図り、その外国語訳に努める。

実績·成果

- ・本館、平成館、法隆寺宝物館、東洋館において、日本の考古、美術、工芸、民族資料、歴史資料および東洋の考古、 美術、工芸に関する平常展示および特集陳列を行った。
- ・19年度はあらたに、本館1階特別第5室(470㎡)に「仏像の道」と題する常設展示を設けた。インドで生まれた仏像が、中央アジア、中国、朝鮮半島を経由して日本にもたらされた歴史を、実物の作品で示している。
- ・展示趣旨や展示品に関する日本語・英語の解説パネルも増 やした。「仏像の道」の展示室には、当館ではじめて日・ 英・中・韓の四つの言語による解説パネルを設置した。
- ・法人の考古資料相互貸借事業経費により、山梨県立考古博物館および長野県立歴史館からの借用品によって、特集陳列「中部日本の縄文土器」を開催した。
- ・また文化庁と共同で「新指定文化財展」、東京文化財研究所と共同で「海外所在文化財修理展」を開催した。



仏像の道 展示風景

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

外国人を含む多数の観覧客に、日本美術を鑑賞し、日本文化への理解を深める場を提供するとともに、収入増加に貢献している。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	平常展入場者数	334, 297 人	_	_
	陳列替回数	319 回	200 回	A
	陳列総件数	10,223件	6,000件	A
	特集陳列実施回数	84 回	_	_
	外国語パネルの設置	95%	80%	A

中期計画期 間における進 捗状況

施設名 東京国立博物館 処理番号 0501-2

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝	統文化の国内外への発信		
事業名	(1)展示の充実 ①平常展	(2/3)		
事業概要	2)文化庁関係企画 特別展観 平成 19 年に新たに指定される			
扣当者	担 当 部 事業企画課	事業責任者	特別展室主任研究員	竹内奈美子

実績·成果 特別展観「平成 19 年度新指定国宝・重要文化財」

- 1) 開会期間 4月24日~5月6日(13日間)
- 2)会場 本館 特別第1・2室
- 3) 主催 文化庁 東京国立博物館
- 4) 陳列品総件数 作品 30 件(うち国宝 2 件、重要文化財 28 件)、 写真パネル 2 件
- 5)入館者数 集計なし

課

- 6) 入場料金 平常展料金
- 7) 担当 特別展室主任研究員 竹内奈美子
- ・絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、考古資料、歴史資料の各分野の有形文化財の中から、今年度新たに国宝(土偶 北海道著保内遺跡出土ほか)、重要文化財(紙本着色地獄草紙断簡ほか)に指定された作品を展示。

定性的評価 (目標に対す る成果の達

成状況)

- ・本展は、新たに国宝・重要文化財に指定された作品をいち早く国民にお披露目する企画として重要な位置を占め、多くの来館者からも好評を得ている。
- る成果の達 ・事前広報をもう少し活発に行う必要がある。
 - ・来館者から会期の延長を求める意見もあり、会期に関しては今後検討する必要がある。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
•	•		•		

中期計画期		
間における進		
捗状況		

東京国立博物館 施設名

処理番号

0501 - 3

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1)展示の充実 ①平常展 (3/3)

事業概要

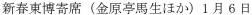
- 3) その他の企画 「博物館に初もうで」
 - ・新春特別展示「子年に長寿を祝う」の実施。新年の干支である「ねずみ」にちなんだ作品 ならびに「長寿」「吉祥」「儀礼」などをキーワードにして、関連する作品を展示。
 - ・各種新春イベントの実施。

担当部課 展示課・事業企画課・渉外課 事業責任者 担当者 事業部長 松本伸之

実績·成果

- ・新春特別展示「子年に長寿を祝う」の実施 平成 20 年 1 月 2 日~1 月 27 日 (23 日間) 総入館者数:28,609人
- 新春イベント

獅子舞(東都葛西囃子睦会)1月2・3日 和太鼓演奏(和太鼓御響)1月2・3日 江戸の遊芸(昔昔亭笑海)1月2日 クラリネットコンサート (アマトゥール) 1月3日 いけばな (池坊・蔵重伸氏) 1月2~14日 寛永寺との関連事業 (寛永寺根本中堂特別参拝)1月2・ 3 日



・「博物館に初もうで」は、平成14年度から開始され新春 総合企画として定着。家族連れをはじめ、若年層から年 配層まで幅広い層に対して博物館に親しむ機会を提供 し、博物館の普及広報に大きな役割を果たした。



新春イベント和太鼓演奏

定性的評価 (目標に対す る成果の達 成状況)

- ・新年の干支である「ねずみ」にちなんだ作品や「長寿」「吉祥」「儀礼」などに関連する作品 を展示した新春特別展示「子年に長寿を祝う」は、お正月にふさわしい展示として概ね好評 を得た。
- ・来館者調査においても 75.6%の方から「満足している」との回答を得るなど好評であった。
- ・各種新春イベントは、日本人のみならず海外からの来館者からも大変好評だった。
- ・「博物館に初もうで」は、今年で5回目となるが、ナショナルセンターとしてよりふさわしい 新春総合企画の立案も検討する必要がある。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期 間における進 捗状況

施設名 京都国立博物館

処理番号

0502

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1) 展示の充実 ① 平常展

事業概要 展観事業の中核として位置づけし、特集陳列等の充実を図る

担当者 担当部課 学芸課

事業責任者 企画室長 赤尾栄慶

実績·成果

- ・定期的な陳列替の実施(53回)
- · 陳列総件数 1,611 件
- ・時期に応じつつ、京都文化を中心とした独創的な特集陳 列等を企画し、実施する
- ・活発な収集を通じて、新たな資料の発掘に努め、平常展 の充実を図る
- ・特集陳列の企画を実施(7件)
- 特集陳列「新収品展」(6/20~7/29)
- 特集陳列「後宇多法皇入山 700 年記念 大覚寺の名宝」 (8/8~9/17)

特集陳列「能楽と美術」(10/11~11/11)

特集陳列「館蔵品のはじまり―京都博物館からの贈りもの―」(11/21~12/24)

新春特集陳列「社寺伝来の名刀」(H20.1/2~2/11)

新春特集陳列「仏師 清水隆慶―老いらくのてんごう―」 (H20.1/2~3/30)

特集陳列「雛まつりとお人形」(H20.2/23~3/30)

・修理完成記念特別展示を実施

「重要文化財 紅地束熨斗文様振袖」(4/11~5/13)



特集陳列「雛まつりとお人形」

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・定期的な陳列替(53回)を実施し、陳列総件数も1611件の実績を残した。
- ・作品の収集については、購入36件、寄贈30件と積極的な収集に努めた。
- ・特集陳列を7回実施し、展示の充実を図った。「後宇多天皇入山700年記念 大覚寺の名宝」では、当該寺院の全面的な連携協力によって、展示の内容を充実させた。「雛まつりとお人形」に関しては、「京の雛めぐり」を実施し、京都文化博物館・博物館さがの人形の家・宝鏡寺門跡と共同開催し、他機関との連携にも努めた。
- ・友禅史会所蔵で長らく寄託を受けていた作品を、篤志家のご寄付と住友財団の助成金によって修理し、修理完成記念特別展示として公開した。
- ・展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置については、平常展示においては、各分野毎の日本語、英語解説パネルを設置していたが、特集陳列については設置していなかったため、19年度より全ての特集陳列において英語解説パネルを設置するよう改善した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	平常展入場者数	165,080 人	_	_	
	陳列総件数	1,611件	1,600件	A	
	陳列替回数	53 回	50 回	A	
	特集陳列実施回数	7 回	_	_	
	外国語パネルの設置	100%	80%	A	

中期計画期 間における進 捗状況

順調に成果が上がっている。

施設名 奈良国立博物館

処理番号

「仏教美術の名品」(本館)

0503

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名 (1) 展示の充実 ①平常展

事業概要

当館は、国内唯一の仏教美術を専門とする博物館であり、収蔵するきわめて質の高い文化財 を活用するために特に平常展を重視し、テーマ性を設けて幅広い年齢層を対象とする魅力あ る展示を実施する。またより多彩な観点から文化財の魅力を伝え、より深みある情報提供を 行うために、時機に応じて特別陳列などの企画展示を開催する。

担当者 事業責任者 | 企画室長 稲本泰生

実績·成果

・年度を通じた平常展の開催

本館 「仏教美術の名品」(彫刻部門)、「中国古代青銅器」 西新館 「仏教美術の名品」(考古・工芸・絵画・書跡部門)

特集陳列の実施(4件)

「塑像と塼仏」(4月17日~、本館)

「僧侶の道具」(6月9日~7月8日、西新館)

「奈良で甦る縄文の世界-小野忠正コレクション」

(12月8日~2月11日、西新館)

「涅槃」(2月14日~3月16日、西新館)

・正倉院展の会期にあわせた関連展示の実施

「文化財の燻蒸装置」(10月27日~11月12日、西新館ピロティ)

・企画展示の実施(計5回)

「古玩逍遥-服部和彦氏寄贈仏教工芸展」(6月9日~7月8日、西新館)

「文化庁購入文化財展 新たな国民のたから」(7月14日~8月19日、西新館)

「新指定 平城宮の木簡」(7月14日~8月19日、西新館)

「おん祭と春日信仰の美術」(12月8日~1月20日、東新館)

「お水取り」(20年2月2日~3月16日、東新館)

・親と子のギャラリーの実施

「仏さまの彩り」(7月14日~8月19日、東新館)

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・西新館平常展では前年度末に完成した壁付新ケースを活用した展示の充実が行われ、前年度にリニューアルされた本館平常展と併せ、仏教美術に関しては国内外いずれをとっても他に類をみない、高水準の展示を行うことができた。また平常展における英文の作品解説を増加させ、外国人来館者に対するサービスをより向上させることができた。
- ・特別陳列「古玩逍遥」では前年度に寄贈を受けた個人コレクションの全容を紹介し、また「文化庁購入文化財展」では文化庁が新規に購入した作品をまとめて展示し、文化庁・国立博物館における文化財収集活動の意義を広く示すことができた。親と子のギャラリー「仏さまの彩り」は作品展示のみならず、高精細デジタル画像で作品の細部を同時に見られる展示を行い、また刺繍の体験コーナーを設置するなどして、子供にも分かりやすい展示を実現して好評を博した。
- ・正倉院展の関連展示「文化財の燻蒸装置」で、国内における文化財専用燻蒸装置の第一号である正倉院事務所旧蔵の燻蒸装置を展示し、文化財保存活動の意義を、多数の正倉院展来館者に示すことができた。
- ・本館回廊部分にスポット照明設備がないため、非常に質の高い仏像彫刻を展示しているに も関わらず、その魅力を十分に引き出しきれていない。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	平常展入場者数	131,336 人	_	_
	陳列替回数	21 回	19 回	A
	陳列総件数	928 件	600 件	A
	特集陳列等実施件数	10 回	_	_
	外国語パネルの設置	56%	80%	В

中期計画期 間における進 捗状況

0504

(1) 展示の充実 ① 平常展 (6/6ページ目) 九州国立博物館 (1/1ページ目)

【書式A】

施設名 九州国立博物館 処理番号

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1) 展示の充実 ① 平常展

事業概要

- ① 定期的な陳列替(年110回程度)、陳列総件数(約1,200件)を実施する。
- ② 平常(文化交流)展の部分的なリニューアルによって充実を図るとともに、特集陳列により、独創的なテーマおよび地域に密着したテーマを掘り下げる。
- ③ 他国語対応として、英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室ガイドブックを作成する。

担当者 担当部課 企画課

事業責任者 文化交流展室長 河野一隆

実績·成果

- ・文化交流展示室では、当館のテーマである日本の文化交流を重視する観点から、計画的に 375 回に亙る展示替えを行い、来館者にもきめ細やかな展示情報の提供を行った。
- ・特定のテーマを掘り下げた特集陳列を実施した。(5回) 「王塚古墳と北部九州の王たち」(6月20日~20年3月31日) 「新指定重要文化財 笹塚古墳出土品と双六古墳出土品」(7月2日~10月9日)

「東アジア紙文化財保存修理シンポジウム(第 2 回)記念-文化をつたえる紙の路-」(8月20日~10月8日)

「釈迦誕生図―受け継がれる朝鮮仏画の名品―」(10 月 10 日 ~11 月 8 日)

「朝鮮通信使―江戸時代の平和外交―」(11月 20日~20年1月6日)

・来館者の興味を呼び起こすような内容の深い展示を提供すると 同時に、リーフレットを作成し、関連したシンポジウムも開催 した。



「王塚古墳と北部九州の王たち」 文様の華麗さで、全国的にも著名 な桂川王塚古墳出土品(重要文化 財)を中心に、弥生・古墳時代の出 土品を公開した文化交流展室第3 室「倭人伝の世界」開催の特集陳 列

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・国宝・重文を含む多数の優れた文化財による展示、特定の動線を持たない、体験的な展示 を多数盛り込んでいる、露出展示品と観覧者の距離が大変近い、といった当館ならではの 文化交流展の特徴が理解され、団体来館者によるリピーターも定着し、好評を博している。
- ・シアター4000 の新映像コンテンツ「じろじろぞろぞろ 南蛮屏風」および関連展示室内装飾古墳バーチャルシアターで新作映像を公開した。
- ・375回の陳列替を行い、いつでも新鮮な展示を提供すると同時に、5回にわたる特集陳列を実施し、より掘り下げたテーマについて来館者の興味を深めることができた。
- ・ 遺唐使船積荷模型の体験コーナーが、開館当初以来、大好評につき非常に混雑していたが、 入口を広くして鑑賞し易いように改造し、来館者サービスを向上した。
- ・展示環境(導線等)について、来館者から意見が寄せられているところであるが、継続的な課題として今後も検討を続ける必要がある。
- ・増え続ける外国からの来館者、とくに韓国からの来館者に対し、単に日本語解説の翻訳ではなく、日本文化を理解するための必要な情報を供給するガイドブックが必要と考える。

定量的評価	項目	実績	目標值	評価	
	平常展入場者数	341,282 人	_	_	
	特集陳列	5 回	_	A	
	作品への外国語キャプション	100%	_	A	
	時代背景の外国語パネル				
	(音声ガイドで対応を含む)	63%	80%	В	
	陳列替回数	375 回	110 回	A	
	陳列総件数	2,012件	1,200件	A	

中期計画期間における進

捗状況

おおむね、目標値を達成できているが、異文化圏からの観覧者対応に一層のサービスが必要。

(1) 展示の充実 ② 特別展等(1/15ページ目) 東京国立博物館(1/5ページ目)

【書式A】

施設名

東京国立博物館

処理番号

0601 - 1

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1) 展示の充実 ②特別展等 (1/5) 「レオナルド・ダ・ヴィンチ―天才の実像」

事業概要

傑作「受胎告知」(フィレンツェ・ウフィツィ美術館蔵)を中心に、レオナルド・ダ・ヴィンチの芸術と科学に関する広範な試みを紹介する。

担当者 担当部課 事業企画課

事業責任者 事業企

事業企画課長 井上洋一

実績·成果

- ·開会期間 19年3月20日~6月17日 (79日間)
- · 会場 第 1 会場:本館特別 5 室 第 2 会場:平成館 特別展示室第 1~4 室
- ・主催 「イタリアの春 2007」実行委員会、東京国立博物館、朝日 新聞社、NHK、NHK プロモーション
- ・陳列品総件数 101件
- · 入館者数 79 万 6004 人(目標 50 万人)
- ・入場料金 一般 1,500 円 大学生 1,200 円 高校生 900 円 中学生以 下無料
- ・アンケート結果 満足度 66.9%
- ・ルネサンスの巨匠、レオナルド・ダ・ヴィンチの傑作「受胎告知」(フィレンツェ・ウフィツィ美術館蔵)を日本で初公開し、あわせてレオナルド・ダ・ヴィンチの手稿の写しやそれらをもとに制作されたさまざまな模型や映像などを展示することにより、レオナルド・ダ・ヴィンチの芸術と科学に関する広範な試みを紹介した。



定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・第1会場には《受胎告知》1点のみを展示。世界の至宝である《受胎告知》を多くの来館者 (796,004人)にご覧いただけた。大空間の中で来館者が徐々に名画に近づき、高低差の付いた動線を進むことでさまざまな視点から名画を鑑賞できるような会場設計に努めた。
- ・第2会場ではレオナルドの芸術と科学に関する考えを来館者によりわかりやすくするために模型や映像を多用した展示を行った。
- ・本展を通し、イタリア政府との国際的文化交流が深まるとともに、作品の移動、展示ケースの製作、照明等において多国間 (イタリア・アメリカ・ドイツ・イギリス・日本) 研究協力が実現し、それぞれの研究面においても大きな成果を得た。
- ・開催までの準備期間が極めて短かったために、カタログ、会場解説等により噛み砕いた解 説が不足した。
- ・来館者が心地よく美術を鑑賞できる空間作りもあわせて考えなければならない。特に混雑対策については引き続き十分考えなければならない。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	入場者数	796,004 人	500,000 人	A

中期計画期 間における進 捗状況

(1) 展示の充実 ② 特別展等(2/15ページ目) 東京国立博物館(2/5ページ目)

【書式A】

施設名

東京国立博物館

処理番号

0601-2

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1) 展示の充実 ②特別展 (2/5) 足利義満六百年遠忌記念「京都五山 禅の文化」展

事業概要

鎌倉時代から室町時代にかけて、朝廷や幕府の庇護を受けて繁栄をきわめ、中国風の禅文化が興隆した京都五山(南禅寺、天龍寺、相国寺、建仁寺、東福寺、万寿寺)ゆかりの作品を展示し、京都五山の禅の文化の精華を示す。京都五山をまとめてとりあげる初めての試みである。

担当者 担当部課 事業企画課

事業責任者

出版企画室長 浅見龍介

実績·成果

- ·開会期間 7月31日~9月9日(37日間)
- •会場 平成館 特別展示室第 1~4 室
- 主催 東京国立博物館 日本経済新聞社
- 陳列品総件数 232件

(うち国宝8件、重文109件、重要美術品8件)

- · 入館者数 10 万 8,917 人(目標 10 万人)
- ・入場料金 一般 1,500 円 大学生・高校生 900 円 中学生以下無料
- ・アンケート結果 満足度 70.7%
- ・南禅寺、天龍寺、相国寺、建仁寺、東福寺の本山ならびに諸 塔頭、各地の美術館・博物館、大徳寺や円覚寺といった他派 寺院の協力も得て、禅僧の肖像画・肖像彫刻、袈裟、墨蹟、 水墨画、仏画、仏像など、ふだん拝観できない宝物、各地に 散在する京都五山ゆかりの名宝を一堂に展示した。その結果、 出品総件数 232 件に占める国宝・重要文化財の数は半数を超 える 117 件となり、たいへん充実した内容となった。



定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・出品交渉先が多く、交渉に時間がかかったが、本展に必要不可欠な名品はほぼもれなく展示することができ、展示作品については「とても充実してよかった。禅宗の貴重な文化財が楽しめた。」など多くの好評意見が寄せられ、アンケートの満足度は70.7パーセントに達した。
- ・事前調査や情報収集の結果、未紹介・初公開の作品を少なからず取り込むことができ、学術的にも成果があった。
- ・仏画、仏像の照明については好評意見が寄せられた。
- ・絵画、書跡などの展示ケースのガラスに反射する光で、作品が見づらいとの意見もあり、展示ケースのガラスに低反射フィルムを貼るなどの対策が今後必要である。
- ・展示作品が充実していたわりに、入館者数は伸びなかった。その分、じっくり作品を見ることができよかったという意見も多く、レオナルド展より満足度は高くなった。しかし広報戦略については、ポスター・チラシの制作時期が遅かったことなど、反省すべき点もある。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	入場者数	108,917 人	100,000 人	A	

中期計画期 間における進 捗状況

(1) 展示の充実 ② 特別展等(3/15ページ目) 東京国立博物館(3/5ページ目)

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号

0601-3

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1) 展示の充実 ②特別展等 (3/5) 「大徳川展」

事業概要

将軍家・御三家や東照宮などに伝わる徳川家ゆかりの宝物を初めて一堂に集め、江戸の武家文化を形成した徳川家の全貌を紹介する。

担当者 担当部課 事業企画課

事業責任者 上席

上席研究員 松原茂

実績·成果

- ·開会期間 10月10日~12月2日(42日間)
- ·会場 平成館 特別展示室第1~4室
- ・主催 東京国立博物館、徳川記念財団、徳川黎明会、水府明徳会、 テレビ朝日、朝日新聞社、博報堂 DY メディアパートナーズ
- ・陳列品総件数 308件(うち国宝15件、重文58件)
- · 入館者数 42 万 5492 人(目標 25 万人)
- ・入場料金 一般 1,500 円 大学生 1,200 円 高校生 900 円 中学生以下無料
- ・アンケート結果 満足度 70.4%
- ・徳川家康からはじまる江戸時代の徳川家の歴史を、歴代将軍の肖像画や所用の武器・武具あるいは遺愛の品々によってたどるとともに、将軍家・御三家や東照宮などに伝わるゆかりの宝物を一堂に集めて展示し、江戸の武家文化を形成した徳川家の全貌を紹介した。将軍家・尾張・紀伊・水戸の各徳川家に伝えられた名宝が揃って展示される、初めての機会となった。



定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・将軍家、御三家や東照宮などに伝わるゆかりの宝物が初めて一堂に集まるという魅力が十分に伝わり、予想を大きく上回る観客動員があった。
- ・江戸時代の武家文化を形成した徳川家の全貌を紹介するという主題のため、出品作品は多岐にわたることとなったが、3つのテーマに分けて展示を構成することで、全体としては 簡潔で分かりやすい内容にまとめることができた。
- ・茶入など、各家に分けられて伝わり、公開される機会の少ない名品を、再び一緒に鑑賞していただく機会とすることができた。
- ・アンケート結果によれば、「混雑していて展示が見えなかった」「途中休憩用のイスをもっと 多く置いて欲しい」などの声が多数寄せられており、予想を超える混雑に会場レイアウトが 対応できていなかった。
- ・キャプションの文字の大きさや添付位置などについても同様で、混雑が予想を上回っており、開会後一部改訂を行ったものの、「文字をもう少し大きく」「もう少し高い位置に」などの意見が多かった。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	入場者数	425, 492 人	250,000 人	A	

中期計画期 間における進 捗状況

(1) 展示の充実 ② 特別展等(4/15ページ目) 東京国立博物館(4/5ページ目)

【書式A】

施設名

東京国立博物館

処理番号

0601-4

中項目 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1) 展示の充実 ②特別展 (4/5)

陽明文庫創立70周年記念特別展「宮廷のみやび―近衞家1000年の名宝」

事業概要

藤原北家の流れを汲み、五摂家の筆頭で公卿第一の名門、近衞家の当主で、内閣総理大臣 であった近衞文麿が設立した陽明文庫のコレクションを中心に、明治の初年に宮廷に献上さ れた宝物などを含めた近世までの近衞家の名宝を一挙に公開する。

担当部課 事業企画課 担当者 ┃事業責任者 ┃ 文化財部長 島谷弘幸

実績·成果

- · 開会期間 20年1月2日~2月24日(46日間)
- ·会場 平成館 特別展示室第1室~4室
- · 主催 東京国立博物館 財団法人陽明文庫、 NHK、NHK プロモーション
- ・陳列品総件数 214件(うち国宝12件、重文41件)
- · 入館者数 15 万 7,718 人(目標 12 万人)
- ・入場料金 一般 1400円 大学生・高校生 900円 中学生以下無料
- ・アンケート結果 満足度 78.3%
- ・藤原道長自筆の日記などにうかがわれる宮廷貴族の生活、近衛信 尹・信尋・家熈ら、近世の近衛家の文化的営為、近衛家収集の書 跡・絵画・茶道具・刀剣・人形など、多方面にわたる近衛家の活 動、近衛家伝来の品々により、みやびな公家文化の粋を紹介した。



定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・本展は、陽明文庫に収蔵される 20 万点におよぶ作品、ならびに宮内庁三の丸尚蔵館に献納 された旧近衛家コレクションを加えた、陽明文庫の全貌を俯瞰する初めての試みであり、そ の企画意図は一般に好評をもって迎えられ、真冬にも関わらず多数の入場者を集め、15万人 を超えた。
- ・藤原道長の自筆の日記(国宝 御堂関白記)や古筆を集成した「大手鑑」(国宝)、「和漢抄」(国 宝)など書道関係者の注目を集める名品がそろい、見ごたえのある展示内容であった。
- ・人形や立花、茶道関係の作品も多く、バラエティに富み、魅力的な展示構成であった。
- ・書家として習練を積むための「臨書」の実相を、原本と臨書作品を対にして展示するなど、 立体的な展示手法がわかりやすく好評であった。
- ・書の読み下し表記について来館者からさまざまなご意見があった。今後よりわかりやすい表 記に努めたい。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	入場者数	157, 718 人	120,000 人	A

中期計画期 間における進

中期計画に対して、順調に成果を上げている。

捗状況

(1) 展示の充実 ② 特別展等(5/15ページ目) 東京国立博物館(5/5ページ目)

【書式A】

施設名

東京国立博物館

処理番号

0601-5

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1) 展示の充実 ②特別展 (5/5) フィラデルフィア美術館「池大雅・徳山玉瀾展」特別協力

事業概要

江戸時代、わが国の文人画(南画)の大成者として名高い池大雅とその妻玉瀾の書画作品を 大規模かつ集約的に紹介する。

担当者担当部課

事業企画課

事業責任者 平常展室主任研究員 松嶋雅人

実績·成果

- 開会期間 5月1日~7月22日(66日間)
- ・会場 フィラデルフィア美術館(米国)

Dorrance Special Exhibition Galleries, first floor

- ・主催 フィラデルフィア美術館
- ・陳列品総件数 209件(うち国宝2件、重文10件)
- · 入館者数 6万5,995人
- 入場料金 一般 15ドル
- ・当館は特別協力として、日本国内における作品の出品交渉・借用・返却、輸出入業務とそれらに関する連絡調整を行い、 また作品に随伴し、現地での作品点検、陳列・陳列替・撤収の各作業に従事し、指導と助言を行った。
- ・本展は大阪市立美術館も協力し、当館と共同して業務にあたった。
- ・会期中、国際シンポジウムが開催され、松原茂上席研究員 が研究発表を行い、米国における江戸時代の文人とその書 画についての理解を深め、好評を博した。



定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・予想を上回る入場者数であったと主催者から報告があった。とくに、ニューヨークタイムズ 紙をはじめ、各種マスコミに積極的に紹介されたことで、本展には米国内の注目と高い関心 が向けられた。
- ・本展を通し、両館の友好関係の促進と米国内における当館の信用の向上に繋がると同時に、 国際交流面での当館の内実的発展に寄与するものとなった。
- ・出品件数 209 件、内訳は、米国内 84 件、日本国内 125 件。日本国内 125 件のうち、国宝 2 件、重要文化財 10 件を含み、規模と内容において日本の文人画(南画)の海外展としては 過去に例を見ないものとなった。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	入場者数	65, 995 人	_	_

中期計画期 間における進 捗状況

(1) 展示の充実 ② 特別展等(6/15ページ目) 京都国立博物館(1/3ページ目)

【書式A】

施設名

京都国立博物館

処理番号

0602-1

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1) 展示の充実 ②特別展等 (1/3)

特別展覧会 金峯山埋経一千年記念「藤原道長―極めた栄華・願った浄土―」

事業概要

平安時代を代表する貴族藤原道長(966-1027)が大和金峯山に参詣した寛弘四年(1007)からちょうど一千年を経たことを記念し、金峯山経塚出土品を中心に、平安時代中期の山岳信仰や美術に関する作品をあつめ、時代の美意識を理解していただく。

実績·成果

- ・開催期間 4月24日~5月27日(32日間)
- •会 場 特別展示館
- · 主 催 京都国立博物館
- ・陳列品総件数 146件(うち国宝28件、重要文化財70件)
- ・入場者数 3万7,411人(目標2万人)
- · 入場料金 一般 1,200 円、大高生 800 円、中小生 400 円
- ・アンケート結果 満足度 91%
- ・金峯山経塚からの出土品を中心に、道長が極めた栄華と、願った 浄土の様相、さらには末法思想の展開を、同時代の美術、工芸品 及び考古遺品等から探り、理解を深めることができた。



特別展覧会「藤原道長」ちらし

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・藤原道長の仕えた一条朝の宮廷のありかたを示すため、道長の「御堂関白記」(自筆本)をはじめ藤原実資の「小右記」(古写本)、藤原行成の「権紀」(古写本)などを展示した。また10~11世紀の対外交渉を示す、清凉寺の阿弥陀如来立像納入の宋版画などを借用展示した。また、定朝様が確立する以前の仏師康尚の時代の仏像を八体展示した。
- ・陽明文庫所蔵の「御堂関白記」と金峯神社所蔵の金銅藤原道長経筒を中央室に展示し、旅程の地図などの補助パネルをあわせて掲示し、一千年前の道長の金峯山参詣がいかなるものであったかを具体的かつ詳細に理解していただいた。
- ・同聚院の不動明王坐像や子島曼陀羅・道長自筆の法華経など一条朝の作品で道長にゆかり の深い作品を一堂に展示することができた。
- ・絵画や彫刻などの作品ジャンルにとらわれずに文書や典籍・考古遺物など多くの分野の作品から平安中期、藤原道長の時代を多角的に展示できた。
- ・副題の「極めた栄華」にあたるような美しい衣装や平安貴族の華麗な暮らしの様子を示す 作品を想像してこられた観客には、やや地味な印象を与えたかもしれない。
- ・ 貴族の日記など古文書の展示では内容解説パネルをより多く加えて、来館者の深い理解への補助としたかった。今後の展示で改善したい。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	入場者数	37,411 人	20,000 人	A

中期計画期 間における進 捗状況

・中期計画の方針に沿って、顕著な成果をあげている。

(1) 展示の充実 ② 特別展等(7/15ページ目) 京都国立博物館(2/3ページ目)

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号

0602-2

中項目 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1) 展示の充実 ②特別展等 (2/3) 特別展覧会「狩野永徳」

事業概要

桃山時代を代表する画家、狩野永徳の画業を回顧する史上初の試み。国宝・重要文化財指定 の代表作はもちろんのこと、新たに発見された作品も多数展示することによって、永徳の画 業の全貌を明らかにした。と同時に、華やかでスケール感豊かな桃山絵画の魅力を紹介した。

担当者 担当部課 学芸課 事業責任者 │ 保存修復指導室長 │ 山本英男

実績·成果

- ・開催期間 10月16日~11月18日(30日間)
- 会 特別展示館
- · 主 催 京都国立博物館、毎日新聞社、NHK京都放送局、 NHKきんきメディアプラン
- ・陳列品総件数 71件(うち国宝5件、重要文化財8件、 重要美術品4件)
- ・海外からの出陳件数 3件 (メトロポリタン美術館・ホノルル美術館・フランクロイド・ ライト財団)
- · 入場者数 23 万 656 人(目標 7 万人)
- · 入場料金 一般 1400 円、大高生 900 円、中小生 500 円
- ・アンケート結果 満足度83%
- ・狩野永徳の作品を中心に、父・松栄や弟・宗秀、後 特別展覧会「狩野永徳」プレちらし 継者である息子の光信・孝信、弟子である山樂らの 作品や資料をテーマ別に展示し、永徳やその周辺画家たちの活動の実体を明らかにすると 同時に、狩野派画家の魅力を紹介した。

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・史上初の大回顧展ということもあり、さまざまなメディアで取り上げられた。その結果、 わずか一か月(実質30日)の開催期間にもかかわらず、膨大な数の入館者を記録した(-日平均 7700 人)。
- ・これまで遺作が極端に乏しいとされてきた永徳であったが、このたびの調査によって数多 くの注目すべき永徳画ないしは永徳筆の可能性を多分にもつ作品を出陳することができ た。これにより、今後の永徳研究、桃山絵画研究に新たな筋道を提示した。
- ・水墨画・扇面・風俗画・肖像画・金碧画・金碧大画というように、ジャンルごとに陳列す ることで、その特色や魅力をより明瞭に把握できるように工夫した。また永徳の弟子たち の作品も一部加えることによって、永徳の個性がいっそう際立つように配慮した。
- ・一日平均入場者数7700人という数値は、当館の特別展示館の規模を考えた場合にはほぼ最 大限の数値であり、さまざまな努力(入退館時間の延長・民間会社による入場者の誘導・ 展示ケースの移動など)を試みたにもかかわらず、つねに1~2時間くらいの待ち時間を生 じた。それを少しでも解消するには、説明文(題箋)の簡潔化や展覧会期間を延ばすなど の措置が考えられるが、前者ではサービス不足の指摘を受ける可能性があり、後者では作 品の展示期間の制限があるため、すぐさま実行に移すには問題が多い。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	入場者数	230,656 人	70,000 人	А

中期計画期 間における進 捗状況

中期計画の方針に沿って、顕著な成果をあげている。

(1) 展示の充実 ② 特別展等(8/15ページ目) 京都国立博物館(3/3ページ目)

【書式A】

施設名「

京都国立博物館

処理番号

0602-3

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1) 展示の充実 ②特別展等 (3/3) 特別展覧会 修好通商条約締結 150 周年

「憧れのヨーロッパ陶磁―マイセン・セーヴル・ミントンとの出会い」

事業概要

米欧 5 ヶ国との通商修好条約締結という日本の実質的開国を象徴する出来事から、150 年という節目の年に、ヨーロッパ陶磁という素材を通して、日欧の文化交流の歴史を辿る展覧会を実施する。

担当者 担当部課 学芸課

事業責任者 企画室主任研究員 尾野善裕

実績·成果

- ・開催期間 1月5日~3月9日(56日間)
- ·会 場 特別展示館
- ・主 催 京都国立博物館、読売新聞大阪本社、讀賣テレビ
- · 陳列品総件数 175 件
- · 入館者数 5万9,267人(目標3万人)
- · 入場料金 一般 1,200 円、大高生 800 円、中小生 400 円
- ・アンケート結果 満足度 91%
- ・マイセン・セーヴル・ミントンといった、ヨーロッパを代表 するメーカーの製品を多数含め、陶磁器を中心に 175 件を展 示した。



特別展覧会「憧れのヨーロッパ陶 磁」ちらし

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・日欧の文化交流史に対する理解を促進する観点から、原則として江戸・明治時代に日本へもたらされたヨーロッパ 陶磁を展示した。併せて、ヨーロッパ陶磁との影響・摸倣関係にある日本・中国陶磁を展示した。
- ・作品の展示に併せて、実際のヨーロッパ陶磁の使用状況をイメージすることができるよう、輸入代理店から提供(協力)を受けたマイセン磁器を用いてコーディネートしたテーブルセットを3卓展示した。
- ・会期中に、関連の普及啓発事業として、内外の講師による土曜講座を6回実施した。展示に対しての理解促進の一助として、図録を作成し販売すると同時に、業者による音声ガイドシステム(当館監修)を導入した。
- ・会期中、会場内にセットしたチェンバロのミニ・コンサートを9回実施し、観覧客へのサービス向上と併せて、会場の雰囲気の盛り上げにも務めた。
- ・読売新聞大阪本社に共催を依頼し、資金面・広報面での全面的な協力をえた。
- ・英国総領事館・フランス大使館・ドイツ連邦共和国総領事館から後援を受けると共に、ヨーロッパ陶磁の輸入代理 店からの協賛を受け、展示・広報の充実を図った。・予算要求していた平常展示館の建て替え工事が認められなか ったことに伴い、現存展示室の有効利用を図るべく急遽企画・立案した展覧会だったため、資金面でも準備時間の 面でも大変厳しい条件での開催であったが、全6章構成のうち丸々1章分を長年にわたる当館の社寺などの調査で 見いだされた作品で構成したほか、各章に研究面での新知見を盛り込むことができた。特に、日本の中でも京都と いう土地柄に着目し、ヨーロッパ陶磁との関わりを取り上げた点は、共催新聞社以外の新聞紙面でも取り上げられ、 一定の評価をえることができた、と自負している。
- ・国立博物館が、東洋古美術だけを扱う専門館ではないことをアピールすべく、ポスター・チラシのデザインに特に 配慮したほか、会場内のしつらえについても、従前の展覧会と異なる雰囲気を出すべく、特に配慮したところ、ア ンケートで高い満足度を獲得することができた。
- ・年度当初計画の中になかった展覧会であったが、1月~3月という客足の鈍る時期の開催であったことに加え、会期中に例年にないほどの頻繁な降雪に見舞われたにも関わらず、目標に設定した3万人以上という少なからざる観客を動員することができた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	入場者数	59, 267 人	30,000 人	Α

中期計画期 間における進 捗状況 ・中期計画の方針に沿って、顕著な成果をあげている。

(1) 展示の充実 ② 特別展等(9/15ページ目) 奈良国立博物館 (1/3ページ目)

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号

0603 - 1

文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 中項目

事業名

(1) 展示の充実 ②特別展等(1/3) 神仏習合展

事業概要

近年の研究成果を踏まえつつ、「神仏習合」の始まりから本格的な展開を紹介し、新資料を 多く含む彫刻・絵画・工芸品等、約200件を展示した。

事業責任者 保存修理指導室研究員 谷口耕生 担当者 担当部課 学芸課保存修理指導室

実績·成果

- ·開会期間 4月7日~5月27日(45日間)
- 会 東西新館
- · 主 催 奈良国立博物館、朝日新聞社
- ・陳列品総件数 205件(うち国宝 18件、重文 91件)
- · 入場者数 4万493人 (目標3万人)
- ・観覧料金 一般 1,000 円、高・大生 700 円、小・中生 無料
- ・アンケート結果 満足度 77%
- ・古来、日本人は山や河あるいは雷など、あらゆる自然 現象の中に神の存在を見いだしてきた。しかし、大陸か ら仏教が伝来すると神と仏は互いに影響し合い、融合し ながら「神仏習合」という新たな信仰世界を生み出して いった。本展覧会では、「神仏習合」のはじまりから本 格的展開までを、数多くの名品とともにさまざまな角度 から紹介した。



神仏習合チラシ



神仏習合展会場内

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・出陳品 205 件のうち、国宝 18 件、重要文化財 91 件を数え、質量ともに過去に行われた神 道美術に関する展覧会を凌駕する内容を提示することができた。
- ・寺の本尊あるいは神社の御神体として門外不出だった仏像や神像を数多く出陳し、普段触 れる機会の少ない神仏習合美術への人々の関心を高めることができた。
- ・展覧会カタログは、会期中に当初印刷分が売り切れ、増刷分も含めて会期終了時に 6,000 部をほぼ売り切った。
- ・会期中に4回の公開講座を実施し、いずれの回も満員に近い聴講者が集まった。
- ・事前調査を踏まえた新資料を紹介し、展覧会カタログに10編の論考を盛り込むなど、多く の学術上の成果を得た。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	入場者数	40, 493 人	30,000 人	A

中期計画期 間における進 捗状況

(1) 展示の充実 ② 特別展等(10/15ページ目) 奈良国立博物館 (2/3ページ目)

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号

0603-2

文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 中項目

事業名

(1) 展示の充実 ②特別展等(2/3) 院政期の絵画展

事業概要

日本絵画史上最も美しい絵画が生み出された時代といわれる院政期に焦点を当て、この時期 に制作された仏画や絵巻の名品の数々とともに、美しい彩色・文様が施された仏像や工芸品 もあわせて展示し、同時代の美意識を広く紹介する。

事業責任者 学芸課長 梶谷亮治 担当部課 学芸課 担当者

実績·成果

- ·開会期間 9月1日~9月30日 (26日間)
- 会 東西新館
- · 主 催 奈良国立博物館、読売新聞大阪本社
- ・陳列品総件数 125件(うち国宝49件、重文57件)
- ・入場者数 2万2,696人(目標1万人)
- ・観覧料金 一般 1,000 円、高・大生 700 円、小・中生 無料
- アンケート結果 満足度 84%
- ・平安時代後期から鎌倉時代初期、いわゆる院政期の絵 画は、仏教思想を基調としつつ、院や女院の美意識とも 関わり、多彩な展開をとげた。本展覧会では、すぐれた 仏画や絵巻物および白描図画などの絵画を中心として、 当代を代表する優品を一堂に紹介した。



美麗展チラシ



美麗展会場内

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・出陳品 125 件のうち、国宝 49 件、重要文化財 57 件を数え、質量ともに史上空前の規模で 院政期絵画の名品の数々を展示することができた。
- ・通常出陳の機会が少ない仏画・絵巻・装飾経などの名品を一堂に集めることで院政期の美 意識を明らかにするという内容について、観覧者から高い評価を得た。
- ・入場者数は目標の1万人を大きく上回り、2万2,696人を数えた。
- ・展覧会目録は3,937冊を売り上げ、入館者5.66人に1人という高率で購入された。
- ・会期中に展覧会のテーマに関わる第一線の研究者を招いて 3 回の公開講座を実施するとと もに、会期中に関連テーマによる公開講座を 3 日間に渡って開催し、院政期絵画の啓蒙に 努めた。
- ・4週間の会期を前期・後期の2期に分け、前期に来館した観覧者に後期の割引を適用すると いうサービスを実施した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	入場者数	22,696 人	10,000 人	A	

中期計画期 間における進 捗状況

施設名「

奈良国立博物館

処理番号

0603-3

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1) 展示の充実 ②特別展等 (3/3) 第 59 回正倉院展

事業概要

聖武天皇の遺愛品、大仏開眼会におけるさまざまな献納品、東大寺で用いられた仏具、楽器、 染織品のほか、遊戯具、文房具など、正倉院宝物の全体像が見渡せる内容となっている。

担当者 担当部課 学芸課

事業責任者 学芸課長 梶谷亮治

実績·成果

- ·開会期間 10月27日~11月12日(17日間)
- •会 場 東西新館
- 主 催 奈良国立博物館
- ・陳列品総件数 70件(うち初出陳 17件)
- · 入場者数 24 万 8,389 人(目標 18 万人)
- ・観覧料金 一般 1,000 円、高・大生 700 円、小・中生 400 円
- ・アンケート結果 満足度 68%
- ・昭和21年から開始され、国民的行事として定着している恒例の正倉院展は、正倉院宝庫の宝物点検の際に宮内庁より貸与を受け、当館にて公開展示するものであり、奈良時代の優れた文化財を鑑賞するまたとない機会として例年多数の入館者があり、その中には固定的ファンも多い。



正倉院展チラシ



正倉院展会場内

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・一日の平均入場者数は過去最高となり、混雑が懸念されたが、オータムレイトチケットの 販売、入場制限、休日における団体客の制限、係員の配置等により、大きな問題を生ずる ことはなかった。
- ・一日平均では過去最高の入場者数であったが、事前から十分な環境への対策を練り、温湿度の変化やホコリの影響等を最小限に抑えることができた。また、混雑の予想されるケースには結界を用い、観客の体温をガラスケースに伝えない工夫をこうじた。
- ・読売新聞社の特別協力により広報・宣伝活動が順調に進み、またNHKやABC、諸ラジオ放送などの協力も得ることができ、正倉院展の注目度をあげるのに貢献した。
- ・展示宝物 70 件のうち 17 件が初出陳であり、新資料を提供することができたほか、近年始められた染織品の保管方法などを公開した。
- ・展覧会開催中に、公開講座、正倉院シンポジウムを開催したほか、連日ボランティアによる出品宝物の解説(30分)が行われ、鑑賞の手引きとして好評を博した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	入場者数	248, 389 人	180,000 人	A

中期計画期 間における進 捗状況

施設名

九州国立博物館

処理番号

0604 - 1

文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 中項目

事業名

② 特別展等 (1/4) (1)展示の充実 「未来への贈りもの―中国泰山石経と浄土教美術」

事業概要

「末法思想」と「浄土教」をテーマに、考古・工芸・彫刻・絵画・書跡の多彩な分野にわ たる文化財を展示することにより、末法の世の中にあって、経典を後世の人々へ伝えようと する思いは、国と時代、方法の違いはあっても同じだったことを表現するため、今から約千 五百年前の中国と約千年前の日本の作品を中心に、贅と美を尽くした仏教芸術の精華を一堂 に会する。

担当部課 企画課 担当者

事業責任者 研究員 松川博一

実績·成果

- 4月10日~6月10日(61日間) 開会期間
- · 会 特別展室
- · 主 催 九州国立博物館、読売新聞西部本社、 FBS福岡放送
- ・陳列品総件数:118件(うち国宝:15点、重要文化財:50点)
- ·入場者数:7万7,380人(目標入場者数 10万人)
- 入場料金 一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円
- ・アンケート結果 満足度 85.0%
- ・第一章「中国摩崖石経の世界」、第二章「末法の到来と浄土 大集経 巻八・海慧菩薩品 教」、第三章「法華経信仰と装飾経の美」、第四章「九州の 山東省鉄山摩崖刻経、中国・北周時 経塚遺宝」の構成からなり、展示作品は考古・工芸・彫刻・ 代・大象元年(579)、個人蔵 絵画・書跡の多彩な分野にわたる。
- ・記念講演会「安道壹と摩崖石刻経」、伎楽公演「三蔵法師 求法の旅」、天台宗開宗 1200 年記念 天台声明公演、観覧 ツアー「井上拓歩が語る中国石経の旅」を企画実行した。



定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- 中国の末法思想を伝える壮大なスケールの摩崖刻経拓本からはじまり、日本での末法思想 や浄土思想を背景として貴族社会で開花した浄土教美術、さらに地方、特に九州の霊峰な どに埋納されていた経塚遺物を展示できたことで「末法思想」および「浄土信仰」の広い 展開を紹介することができた。日本だけでなく中国も含めた「末法思想」をテーマとした 本格的な展覧会としては本展が初めてのものである。
- 展示手法については、エントランスホールをはじめ広い空間を使ったダイナミックな展示 や鏡による演出効果を狙った展示、デジタル技術を使ったメッセージ性の高い展示など、 これまでにない取り組みを行った。
- 来館者の展示室での滞在時間が長く、リピーターも多かったとの報告もあり、観覧者の満 足度は高かったと分析できる。
- 展覧会タイトルは、来館者に対して展覧会のメッセージを伝える上ではよかったが、抽象 的なために展覧会の具体的な内容や展示物をイメージさせることができず集客に結びつ
- ・ 広報展開、特にテレビによる広報が弱く、集客に影響した。

定量的評価	項目	実績	目標值	評価
	入場者数	77, 380 人	100,000 人	В

中期計画期 間における進 捗状況

施設名

九州国立博物館

処理番号

0604 - 2

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1) 展示の充実 ② 特別展等 (2/4) 「日本のやきもの一選び抜かれた名宝 120 点」

事業概要

世界最古の土器の一つである縄文土器から現代の伝統陶芸にいたるまでの、日本の陶磁器の各時代、各地域の名品を展覧し、世界に誇る日本陶磁の技と美を紹介するものである。文化庁の海外展事業の一環として、ポルトガルに送り出す前に公開する。

担当者 │ 担当部課 │ 企画課 │ 事業責任者 │ 企画課長 伊藤嘉章

実績·成果

- ·開会期間 7月7日~8月26日(49日間)
- •会 場 特別展室
- · 主 催 文化庁、九州国立博物館
- ・陳列品総件数:138件(うち重要文化財:24件、重要
 - 美術品:1件)
- ・入場者数:5万986人(目標入場者数 5万人)
- ・入場料金 一般 1,200 円、高大生 800 円、 小中生 400 円
- ・アンケート結果 満足度87.3%
- ・「誕生-原始・古代のやきもの」「発展-中世のやきもの」「爆発-桃山の茶陶」「飛翔-伊万里の磁器」「洗練-鍋島の精華」「風雅-都のやきもの 京焼」「独創-近現代のやきもの」という7章構成。
- 講演会「桃山の茶陶」林屋晴三東博名誉館員、「華やか名江戸の陶磁」伊藤嘉章九博企画課長。
- ・展示の中に教育普及的要素を三つのテーマで導入した。
- ・会期中に三種類のワークショップを実施した。



「日本のやきもの」展会場 第一室

定性的評価 (目標に対す る成果の達

成状況)

- ・文化庁がポルトガルで開催する日本陶磁展の国内展として共同で開催。
- ・日本陶磁の全体像を示すという大規模な展覧会であり、分野に特化し、その全体像という九博としては最初の展覧会となった。
- ・作品の質、展示構成などから入館者の満足度は高いものがあった。
- ・特別展と教育普及の連携を強めることで、観客の満足度を増すことができた。
- ・広報力がマスコミとの共催展に較べて低下し、入館者数は前年度に較べて伸び悩みとなった。 共催展以外の今後の展覧会広報について課題を残した。
- ・カタログの購買率が約5.7%に上ったことからも来館者の本テーマへの関心の高さが伺える。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	入場者数	50,986 人	50,000 人	A

中期計画期 間における 進捗状況

(1) 展示の充実 ② 特別展等(14/15ページ目) 九州国立博物館(3/4ページ目)

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号

 $\overline{0604} - 3$

中項目 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

② 特別展等 (3/4) (1) 展示の充実 「本願寺展―親鸞と仏教伝来の道」

事業概要

浄土真宗本願寺派の本山である西本願寺は、平成23年(2011年)、宗祖親鸞聖人750回大遠忌 法要を迎える。そこで、九州国立博物館開館2周年を記念する展覧会として、西本願寺にゆか りの美と文化遺産を、従来にない規模で紹介する。

資料管理室長 伊藤信二 担当者 担当部課 企画課 事業責任者

実績·成果

- ・開会期間 9月22日~11月18日 (53日間)
- 会 場特別展室
- · 主 催净土真宗本願寺派、九州国立博物館、 筑紫女学園、西日本新聞社
- ・陳列品総件数:132件(うち国宝:4件、

重要文化財:24件)

- ・入場者数:19万7,697人(目標入場者数 15万人)
- ・入場料金 一般 1,300 円、高大生 1,000 円、 小中生 600 円
- ・アンケート結果 満足度 89.9%
- ・第1章「親鸞聖人の事蹟と信仰」、第2章「本願寺 歴代の肖像と聖教」、第3章「ゆかりの至宝-名 筆・茶の湯・茶の湯」、第4章「大谷探検隊と仏教 伝来の道」の4章で構成され、出陳作品は絵画・ 書跡・工芸・考古などからなる。
- ・五木寛之氏による記念講演会「親鸞の悲しみ」、記 念シンポジウム「シルクロード―共存の道~大谷 探検隊からのメッセージ」、落語・節談説教「落語 のルーツは浄土真宗のお説教!?」、「宗祖降誕奉讃 法要」や「雅楽コンサート」などを実施した。



「松桜孔雀図」 江戸時代・17世紀、京都・本願寺

定性的評 価

・浄土真宗本願寺派の本山として古今にわたるあつい信仰を集めてきた本願寺(西本願寺)ゆ かりの文化遺産を、九州において初めて本格的に紹介することが出来た。

(目標に対 する成果の 達成状況)

- ・親鸞聖人と歴代門主にまつわる肖像画・絵伝、教義を記した典籍類をはじめ、「国宝三十六人 家集」に代表される雅やかな古筆や殿舎・書院の壮麗な障壁画、さらに本願寺第二十二世の 大谷光瑞師が組織した探検隊の収集品など、幅広い分野にわたる文化財を紹介することが出 来た。
- ・共催の西日本新聞社・筑紫女学園大学などと連携し多彩な関連事業を展開することで、展示 に加え様々な側面から有機的に展覧会を構成することが出来た。

定量的評	項目	実績	目標値	評価
価	入場者数	197,697 人	150,000 人	A

中期計画に対し、順調に成果を上げている。 中期計画 期間におけ る進捗状況

施設名 九州国立博物館

処理番号

0604 - 4

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

② 特別展等 (4/4) (1) 展示の充実 「京都五山 禅の文化展」

事業概要

足利義満遠忌600年を記念し、鎌倉時代から室町時代にかけて華開いた京都の禅文化を紹介 するもの。京都五山をはじめ五山派の禅宗寺院にのこる優品を展示し、日本文化史上、京都五 山が果たした大きな役割を示す。東京国立博物館との共同主催。

担当者 担当部課

事業責任者 学芸部長 小松大秀

実績·成果

- ・開会期間 20年1月1日~2月24日(48日間)
- 会 場 特別展室

企画課

· 主 催 九州国立博物館、西日本新聞社、

TVQ九州放送、日本経済新聞社

- ・陳列品総件数:205件(うち国宝6件、重要文化財102件、 重要美術品 11 件)
- ・入場者数:17万1,336人(目標入場者数 8万人)
- · 入場料金 一般 1,300 円、高大生 1,000 円、 小中生 600 円
- ・アンケート結果 満足度 76.4%
- ・彫刻、絵画、書跡、工芸など多彩な分野からなる作品を、 特別展示室および文化交流展示室 (9A、9B室) を会場と して展示した。
- 会期中、記念講演会として「京都五山と禅宗文化」(講 師:有馬頼底氏)、「対談 禅文化と京都を語る」(真野 響子氏、三輪館長)を実施、その他茶会や座禅会などの 関連イベントを催した。



「京都五山 禅の文化」展 特別展示室第三室

定性的評価 (目標に対す る成果の達 成状況)

- 京都五山に伝わる彫刻、絵画、書跡、工芸品を通して、中世禅文化について総合的に展示、 紹介することができた。九州初公開の文化財も多く、観覧者の満足度は高かった。
- 特別展示室に加え文化交流展示室の一部を会場としたことで、来場者の多い文化交流展で 特別展出陳作品を見ていただくことができた。そのことにより、特別展の入場者増にもつ ながった。
- 特別展示室から文化交流展示室内会場へ誘導するサインが少なく、混乱を招いた。
- 教育普及活動の一環として、通常のキャプションのほかに、クイズ形式の「禅問正解」や 「コラム」を設置した。また、「禅僧の一日」というコーナーを設け、禅僧の生活を再現 した。これらの活動は、作品をわかりやすく伝え、展示内容に対する興味を高めることに 貢献した。
- 新聞、TV など広報活動を幅広く展開したことで、多数の来館者を獲得、目標を大幅に超 える結果を得た。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	入場者数	171,336 人	80,000 人	A

中期計画期 間における進

捗状況

(1) 展示の充実 ③ 展覧会広報(1/4ページ目) 東京国立博物館 (1/1ページ目)

【書式A】

施設名

東京国立博物館

処理番号

0701

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名 (1) 展示の充実 ③展覧会広報

事業概要 平常展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。

展覧会ごとにその内容と学術的意義を踏まえ、想定する対象層に応じた広報計画を策定・展開することで来館者の増加を図るとともに、平常展広報をとおして館の活動を広く周知する。

担当者 担当部課 広報室 事業責任者 広報室長 立道惠子

実績·成果

- 1) 東京国立博物館ニュース第 682 号~687 号(隔月刊、発行部数 3 万部)を 発行。入館者への無料配布、定期郵送のサービス (6 冊 1000 円:送料 と事務費購読者負担)を継続
- 2) ウェブサイトによる情報提供
- ・随時更新に努めた ・サイト内検索システムの導入
- 3) 広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等
- ・一例として「博物館に初もうで」(20年1月2日~1月27日) チラシ 日本語9万部 英語1万部、ポスターB1120部 B21600部、 DM発送1,772件、交通広告、JR・東京メトロ・京成電鉄など主要62駅 に掲出



高田馬場駅(松林図 屏風/博物館に初も うでポスター掲出)

- 4)年間スケジュールリーフレット(東京国立博物館展示と催し物案内)を制作、配布した。
- 5)総合パンフレット(7 か国語=日・英・独・仏・中・韓・西)、本館・東洋館フロアガイド(4 か国語=日・英・韓・中)を改訂増刷、新たに応挙館のパンフレットを制作した。
- 6)マスコミ媒体と連携した広報活動の展開
- ・18 年度に引き続き、「月刊うえの」「月刊書道界」「展覧会ガイド」「にっぽにあ」等に加え「かぞくのじかん」の連載ページを新たに確保し、マスコミ媒体との連携による広報を行なった
- ・プレスリリースを 262 社に送付。定期情報:月1回 臨時情報:3回
- ・マスコミ対応 取材・撮影・写真貸出し等約 410 件 掲載(新聞・雑誌・インターネット等)約 530 件
- 7) 電子メールマガジン配信回数 57 回、登録者数 16,758 名 メールマガジン利用者の利便性を高め、かつウェブサイト上での友の会・パスポートの申 し込みを可能にすることで利用者の利便性を高めるシステムの来年度導入を目指して試験 的導入をした。
- 8) モバイルサイトの開発を検討した。

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・東京国立博物館ニュースでは特集陳列を 48 件紹介するなど、引き続き平常展広報の充実を 図った。
- ・「大徳川展」ではウェブサイトで入場待ち時間を掲出したが、状況に対応して 1 日に数回更新することで、できるだけ適切な情報を迅速に伝えることができた。
- ・新春特別公開「松林図屛風」のポスターを製作し「初もうで」のポスターの一部と駅連貼りを したところ、「松林図屛風」を展示する国宝室には14日間でのべ23,673人が訪れるなど効 果があった。
- ・モバイルサイトの開発は、実現に向けて引き続き検討を重ねていく必要がある。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	東京国立博物館ニュースの発行	6 回	6 回	A	
	ウェブサイトの更新	4,547 回	300 回	A	
	電子メールマガジン配信	57 回	_	_	
	電子メールマガジン登録者数	16,758 人	_	_	

中期計画期 間における進 捗状況

(1) 展示の充実(2/4ページ目) 京都国立博物館(1/1ページ目)

【書式A】

施設名「

京都国立博物館

処理番号

0702

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1) 展示の充実 ③ 展覧会広報

事業概要

平常展示・特集陳列と特別展覧会に関する情報を国の内外に発信する。

担当者

担当部課 学芸課

事業責任者 企画室長 赤尾栄慶

実績·成果

メールマガジン新規発刊(6月)

6月より運用を開始し、第11号まで刊行した。 加入者数 2,358人

「博物館だより」の発行・配布 (4回)

「News Letter」の発行・配布(4回)

「年間スケジュール」リーフレットの作成・配布

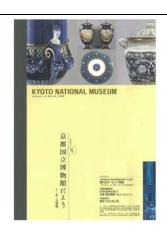
「展示案内」リーフレット(6ヶ国語)の作成・配布

特集陳列リーフレットの作成・配布 (7回)

ウェブサイトによる情報提供(日本語・英語)

モバイルサイトによる情報提供

マスコミ媒体と連携した広報活動の展開 (4回) 映像ブースの活用



「博物館だより」157号

定性的評価 (目標に対する成果の達成

状況)

- ・新たにメールマガジンでの広報を実施し、1ヶ月ごとの平常展示などの情報を発信し、好評を得ている。
- ・「博物館だより」については、英文の「News Letter」も発刊している。「年間スケジュール」 「展示案内(6ヶ国語)」については、滞りなく予定通り作成・配布した。
- ・特集陳列では、毎回リーフレットを作成して鑑賞の便を計るとともに、その概要について は英文のパネルでも表記し、外国人にも理解しやすいように努めた。
- ・特集陳列に関しては、特別展と会期の近いものを除いて、その度ごとに記者発表を行い、 広報・情報発信に努めた。特別展と会期の近い特集陳列では、特別展の記者発表の際に兼 ねて広報を行った。
- ・特集陳列リーフレットのうち、「新春特集陳列」リーフレットに関しては、近隣の社寺の地図を付すとともに、リーフレット配布については所載の社寺の協力を得て、幅広く配布を行った。
- ・ホームページなどを通じて、国の内外に情報発信を行った。
- ・ハイアットリージェンシー京都のロビー・京都駅地下街・太秦映画村などに設置してある京都市内観光用映像ブースに平常展の作品を紹介し、観光客の誘致にも努めた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	博物館だよりの発行	4 回	4 回	A
	News Letter の発行	4 回	4 回	Α
	展示案内リーフレットの作成	6 ヶ国語	6ヶ国語	Α

中期計画期 間における進 捗状況

新たにメールマガジンを発信し、順調に計画を実施・達成している。

施設名 奈良国立博物館 処理番号 0703

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1) 展示の充実 ③展覧会広報

事業概要

来館者等への展示品、展覧会及び博物館に関する様々な情報を広く国民に提供し、国立博物館に対する理解の促進を図るため、広報活動を展開する。

担当者 担当部課 総務課渉外室 事業責任者 渉外室長 植田義雄

実績·成果

- ・奈良国立博物館だより 年4回発行
- ・奈良国立博物館リーフレット (7ヶ国) 発行 日本語 10万部、英語 1万部、韓国語 8千部、中国語 5千部 仏・独・西語各 2千部
- ・奈良国立博物館展示案内を年2回発行
- ・電子メールマガジンによる博物館情報を配信 配信回数 14回、登録者数 3,413人
- ・屋外大型液晶ディスプレイを館入口道路沿いに設置 平常展展示文化財を画像と音声で紹介
- ・特別展「神仏習合」「美麗 院政期の絵画」では、東大寺や 興福寺など近隣社寺に、割引チラシを設置
- ・特別展「正倉院展」では、正倉院宝物のみならず大型減圧 燻蒸殺虫装置を展示し広報展開を実施
- ・「日本美術の流れ リレ・ネットワーク」に協力し、会員向け 広報展開を実施



屋外大型液晶ディスプレイ



燻蒸殺虫装置

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・電子メールマガジンの登録者数は昨年度より増加した。また配信回数も昨年度より増加し、 展覧会情報や平常展作品紹介、イベント及び講演会のお知らせを配信した。今後も登録者 数の増加と定期的な配信を実施する。
- ・屋外大型液晶ディスプレイは、当館と隣接している世界遺産の東大寺・春日大社・興福寺を結ぶ道路沿いに設置し、同所を訪れる観光旅行者などに平常展作品を中心に映像で紹介している。ディスプレイを見て立ち寄る観覧者もおり、当館の存在を広くアピールすることができた。
- ・東大寺や興福寺及び薬師寺などの協力のもと、同所に特別展割引チラシと専用看板を設置できた。奈良を訪れる観光旅行者に、開催中の特別展を広くアピールできた。
- ・大型減圧燻蒸殺虫装置は、宮内庁正倉院事務所で正倉院宝物の虫害防除として長年貢献した装置であり、正倉院展と同時期に展示することで、入場者の増加及び文化財保存に関する技術を広報することができた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	博物館だより発行	4 回	4 回	A
	電子メールマガジン登録者数	3,413 人	_	_

中期計画期 間における進 捗状況

施設名 九州国立博物館 処理番号

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名 (1) 展示の充実 ③ 展覧会広報

事業概要 ① 外国語のガイドブックを刊行する。

- ② 特別展の実施に伴う広報・宣伝材料の制作
- ③ マスコミ媒体と連携した広報活動の展開
- ④ 「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」の発行(年4回)
- ⑤ ウェブサイトによる情報提供(日本語・英語)(常時更新)
- ⑥ 地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開
- ⑦ 九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動の展開

担当者	担当部課	企画課	事業責任者	文化交流展室長	河野一隆
		広報課		企画課長	伊藤嘉章
				広報課長	石橋和夫

実績·成果

- ① 外国語ガイドブックの刊行に向けて、来館者動向の調査 を、九州大学金大雄研究室と共同して実施した。ただ、刊 行にまではいたっていない。
- ② 4回の特別展では、ポスター・チラシを制作。うち2回の展覧会では先行チラシ、本チラシと複数制作するとともに、広報資料を制作し、チラシとともに関東・関西圏の雑誌、メディア約300媒体と九州圏内の情報誌約150媒体に送付した。
- ③ イベントや特集陳列の開催など70件のリリースを記者クラブに資料提供した。また、特別展の開催に関する記者発表や、プレスプレビューを実施した。
- ④ 「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を4月1日、7月1日、10月1日、1月1日の4回発行した。
- ⑥ 地元の市、商工会、観光協会等と例月の協議会を開催し、 情報を交換した。
- ⑦ 九州観光推進機構を通じ、東アジアの旅行業者等に随時 情報を提供した。



季刊情報誌 アジアージュ



0704

「京都五山ー禅の 文化展」ポスター

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・九州大学金大雄研究室との共同で行った来館者動向調査は、実際の来館者の動きをよく捉えたものとなり、今後の文化交流展室の展示活動に大きな指針を与えるものとなった。
- ・共催展では特別展案内のチラシを時期に分けて二種類制作し、より細かな広報活動が可能となった。
- ・積極的な広報活動により、地元の新聞、テレビをはじめ、全国向けの雑誌等においても展 覧会の情報が数多く取り上げられた。
- ・地元への情報提供等を通じて、近隣市町村や最寄り駅を有する私鉄の沿線からの来館者と リピーターの確保につなげることができた。
- ・中国、韓国を中心に東アジアからの来館者が増え、韓国から修学旅行生が来館するケース も見られた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	「九博季刊情報誌アジアージ	4 回	4 回	A
	ュ」の発行			

中期計画期 間における進 捗状況

(1) 展示の充実 ④ 黒田記念館の公開機会拡大(1/1ページ目) 東京国立博物館(1/1ページ目)

【書式A】

施設名

東京国立博物館

処理番号

0801

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(1) 展示の充実 ④黒田記念館所蔵作品の公開機会の拡大

事業概要

黒田記念館関係作品を、黒田記念館以外の東京国立博物館の展示施設で展示し、公開機会の一層の拡大を図る。

担当者

担当部課 文化財部展示課

事業責任者 展示課長 谷豊信

実績·成果

- ・本館平成館1階企画展示室において、黒田記念館絵画作品 の特集陳列を2回実施した。
- ・特集陳列「黒田記念館 黒田清輝の作品 I」(4月10日~5月6日)では、代表作である重要文化財「湖畔」をはじめ、フランス留学から晩年までに制作された作品22件を展示した。
- ・特集陳列「黒田記念館 黒田清輝の作品 Ⅱ」(11月6日~12月2日)では、「赤髪の少女」をはじめ、フランス留学時代の作品を中心とする22件を展示した。



重要文化財 湖畔 黒田清輝筆

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況) 2回あわせて8週間、黒田作品を黒田記念館以外の場で展示することにより、黒田作品の公開を拡大した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	黒田記念館作品の展示	44 件	_	_
	特集陳列観覧者数	47,931 人	_	_

中期計画期 間における進 捗状況

施設名

東京国立博物館

処理番号

0901 - 1

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供(1/5)

事業概要

1) ナショナルセンターとしてふさわしい教育普及の先導的事業の実施 ナショナルセンターとしてふさわしい事業として、先導的事業のモデル化と実践と「みど りのライオン」プロジェクトを実施する。

担当者 担当部課 教育普及課 事業責任者 教育普及室長

実績·成果

- ・先導的事業のモデル化及び実践
- 1) 親と子のギャラリー

平常展示の一環として、教育普及的な手法(興味深いテーマ構成、やさしい解説、図版・映像の利用など)を用いた特集陳列を実施。

- ①「博物館のおもちゃ箱」7/3~9/24(75 日間)本館 14 室
- ②「版でつくる」11/27~12/24(20日間)本館特別2室
- 2)体験型プログラムの実施

展示に関連したハンズオン体験コーナーを設け、ワークショップなども実施。「遊ぶ」「作る」などの体験を通して、伝統文化に対する理解と鑑賞を深める新しいプログラムを開発した。

・「みどりのライオン」プロジェクト みんなで楽しむ教育普及スペース・表慶館「みどりの ライオン」を開設。パネル展示により館全体のガイダン ス機能をもたせると同時に、各種レクチャーや体験型プログラム、制作工程模型展示などを、一般から学校団体まで幅広い層に向けて展開。博物館へのアプローチから作品の鑑賞を深めるためのプログラムまで、伝統文化の理解促進に寄与するさまざまな教育普及活動を実施し



表慶館「みどりのライオン」 ならせる銅鐸の展示



ワークショップ 「貝合せをつくってみよう」

定性的評価 (目標に対す る成果の達成

状況)

・先導的事業のモデル化及び実践

親と子のギャラリーによる教育普及的手法を盛り込んだ展示と、それに関連した体験型プログラムの組み合わせにより、来館者の作品へのアプローチが容易になった。また、作品に対して、複数の視点からの理解・鑑賞の可能性を示唆することができた。この結果、来館者の幅広いニーズに応え、それぞれのレベルでの伝統文化理解と鑑賞を深める一助となり、博物館における先導的教育普及事業をモデル化し実践することができた。

・「みどりのライオン」プロジェクト

教育普及事業を実施する恒常的なスペースとして、表慶館に設けた「みどりのライオン」は多くの来館者に利用され、歴史と伝統文化の理解の促進に寄与した。とくに学校団体での利用が多く、適切かつ十分なプログラムの提供が可能になったと同時に、集合場所、荷物の預り、昼食場所の提供など、学校団体へのサービスの面で、著しい向上がはかられた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	表慶館「みどりのライオン」入	130,490 人	_	_
	館者数			
	ワークショップ、体験型プログ	129, 277 人	_	_
	ラムのべ参加者数			

中期計画期間における進

捗状況

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供(2/10ページ目) 東京国立博物館(2/5ページ目)

【書式A】

施設名

東京国立博物館

処理番号

0901 - 2

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名 (2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (2/5)

事業概要 2)学校との連携事業の推進

スクールプログラム、全国高等学校美術・工芸研究会との連携事業、全国歴史教育研究協議会(日本史・世界史)との連携事業、教員内見会を実施する。

担当者 担当部課 教育普及課 事業責任者 教育普及室長 小林牧

実績·成果

・スクールプログラム(児童・生徒対象)

小・中・高等学校での団体来館者に向けて、ガイダンス、鑑賞プログラム、体験型プログラムなどを提供。伝統文化の理解促進に寄与した。

就業体験の受け入れを行い、児童・生徒にキャリア学習の機会を提供するとともに、博物館および文化財保護の意義についての普及にも寄与した。

・高等学校との連携事業

高等学校の単位制授業に教育プログラムを提供した。 (共催:国立西洋美術館、東京国立近代美術館)

· 教員研修(教員対象)

7月25日~27日全国高等学校美術・工芸教育研究会の 会員研修会への協力 講演2件(共催:東京芸術大学) 教員特別鑑賞会・ガイダンスの実施

5/12 平常展と表慶館「みどりのライオン」、10/12「大徳川展」、3/28「薬師寺展」の計 3 回実施。

・インターンシップ

博物館研究員の養成を目的として、大学院生を対象と した、インターンシップを実施。

大学生および教育関連機関等の見学対応





スクールプログラム受講風景

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・スクールプログラムでは、児童・生徒の鑑賞体験を深め、伝統文化の理解を促進することができた。同時に、公共施設におけるマナーを習得させ、博物館および文化財保護に関する意識を高めることもできた。美術作品を鑑賞し、伝統文化に触れる機会を得ることは、児童・生徒にとって将来の大きな糧になると同時に、博物館にとっては、来館者層の拡大と将来のリピーターの養成につながるものである。
- ・教員に対する研修を行うことによって、学校教育の現場における鑑賞教育のよりよい展開 と伝統文化に対する理解を促進することができた。
- ・インターンシップを通して、将来の有望な博物館研究員の養成に寄与した。
- ・全国歴史教育研究協議会(日本史・世界史)との連携事業は、先方の都合により本年度は実施しなかった。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	スクールプログラム受講者数	125 校 4,840 人	_	_
	教員内見会参加者数	820 人	_	_
	インターンシップ受け入れ	12 大学 20 人	_	_

中期計画期 間における進 捗状況

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供(3/10ページ目) 東京国立博物館(3/5ページ目)

【書式A】

施設名

東京国立博物館

処理番号 0901-3

記念講演会の様子

中項目 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (3/5) 事業名

事業概要

3) 文化財を分かりやすく理解するための講座・講演会

4) 列品解説・月例講演会・テーマ講演会・連続講座などの実施

来館者が文化財を分かりやすく理解するための講座・講演会・列品解説・講座などを実施する

担当者 担当部課 教育普及課 事業責任者 教育講座室長 白井克也

実績·成果 月例講演会 実施回数 12 回

聴講者のべ人数 1,304 名 (一回平均 109 名)

平均満足度 82.4%

テーマ講演会 実施回数 4回(京都五山の文化展にて実施)

聴講者のべ人数 908 名 (一回平均 227 名)

平均満足度 69.3%

記念講演会 実施回数 8 回

(特別講演会含) 聴講者のべ人数 2,558 名 (一回平均320名)

3日(特別展宮廷のみやび展にて実施) 連続講座 実施回数

聴講者人数 874名 平均満足度 77.4%

公開講座 実施回数 2回 参加者数98名

イブニングレクチャー 実施回数 5回 聴講者のべ人数 419名 (一回平均84名)

平均満足度 71.8%

その他解説等 9回 参加者数 1,852名

列品解説 実施回数 42回 聴講者のべ人数 2,531名(一回平均60名)

教育的イベント 坐禅会、お茶会(特別展京都五山展にて実施) コンサート(特別展レオナ ルド・ダ・ヴィンチ展、宮廷のみやび展にて実施) 保存修復見学ツアー 板

碑ツアー 上野の山でライオンめぐり (台東区との連携事業) 56回

参加者数 1,501 名

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

・多様な講座・講演会等により、文化財に対する理解と親しみを促進した。

- ・外国博物館との人的交流を生かした博物館交流セミナーを新設し、館々交流の成果を還元す るとともに、博物館事業への理解を促した。
- ・夜間開館時を利用して金曜日夕方にイブニングレクチャーや列品解説を開催し、新たな来館 者層の開拓に努めた。
- ・受講者募集においてインターネットによる応募や、1件2名のペア受講券の導入などを試行 した。潜在的な来館者層に訴えるこれらの試みにより、学生やサラリーマンなど、現役世代 の受講を促すことに成功した。
- ・恩賜上野動物園、国立科学博物館、台東区などとの連携事業は、文化財を多様な視点から見 ることを促し、当館のみでは果たしえない内容となった。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	講演会等 参加者数	11,361 人	10,915 人	A	
	講演会等 実施回数	144 回	_	_	
	うち講演会 参加者数	4,770 人	_	_	
	実施回数	24 回	_	_	
	うち連続講座を加者数	288 人	_	_	
	実施回数	3 回	_	_	
	うち公開講座等参加者数	2,369 人	_	_	
	実施回数	16 回	_	_	
	うち列品解説 参加者数	2,531 人	_	_	
	実施回数	42 回	_	_	

中期計画期 間における進 捗状況

施設名

東京国立博物館

処理番号

0901 - 4

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (4/5)

事業概要

5) 東京芸術大学との連携事業

東京芸術大学大学院1年生9名による、展示室内でのギャラリートーク及び所蔵品の制作工程模型作成とそれに係るギャラリートークを行なう事で観覧者の鑑賞を助ける。

担当者 担当部課 教育普及課

事業責任者 ボランティア室長 鷲塚麻季

実績·成果

・展示室内において陳列品を前に、その概要を平易な言葉で20分程度解説することにより、これまで当該作品になじみの薄かった来館者の鑑賞の補助ができた。

ギャラリートーク回数54回 参加者数1,294名

・法隆寺献納宝物の押出仏阿弥陀如来及び僧形像の制作工程 模型を作成し、その過程で得られた新知見をまじえ、表慶 館「みどりのライオン」体験の間においてギャラリートー クの方法で観覧者に解説することにより平常展示鑑賞の 補助とした。



ギャラリートークの様子

表慶館「体験の間」の於ける陳列期間 平成20年2月26日~6月1日 ギャリートーク回数5回 参加者数109名

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・ギャラリートーク実施者にとって、参加者にわかりやすい内容や話し方を工夫することが 貴重な経験となり、参加者は作品鑑賞の理解を深めることができた。
- ・制作工程模型の作成は、古典的技法を追体験することにより、制作者自身が新知見を得る ことができ、その説明を受けた観覧者が作品の制作に関して疑問を解く手がかりを得るこ とができた。
- ・総じて東京芸術大学との連携事業において、模造の制作・ギャラリートークを行うことで、 学生の学習意欲を喚起し(当館の所蔵作品における新知見を見出す等)、発表する機会を提 供した。その結果として博物館の事業および文化財について、来館者に対し多角的な視点 での鑑賞・理解を一層深めることにつながった。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	講演会等のうち				
	学生ボランティアによるギャラリートーク				
	参加者数	1,403人	_	_	
	実施回数	59 回	_	_	

中期計画期 間における進 捗状況

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供(5/10ページ目) 東京国立博物館(5/5ページ目)

【書式A】

施設名

東京国立博物館

処理番号

0901 - 5

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名 (2)歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (5/5)

事業概要 6)キャンパスメンバーズ

キャンパスメンバーズ(大学会員制度)による大学との連携を継続して実施する。

担当者 担当部課 教育普及課 事業責任者 教育普及室長 白井克也

実績·成果

キャンパスメンバーズ会員校へのサービスとして博物館 セミナーと教育連携事業を開催した。

・博物館セミナー 3回実施(9月7日、18日、21日 計6時間) 第1回

博物館における情報管理 田良島哲 情報管理室長 みどりのライオンプロジェクト 加島勝 教育普及課長 参加者 28 名



博物館セミナーの様子

第2回

国際交換展ができるまで白井克也 教育講座室長 国際展の現状と課題 鬼頭智美 国際交流室長 参加者 18 名

第3回

文化財の地震対策 神庭信幸 保存修復課長 東京国立博物館の歴史 高橋裕次 情報課長 参加者 12 名

・連携教育事業 6日間

(9月11・12・13・14・19・20日 計 25.5 時間) 参加校 成蹊大学 大正大学 桜美林大学 武蔵野美術大学より、都合7名

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・博物館セミナーでは、大学における博物館学の学習に資するように、企画展の開催までの業務、文化財情報の管理、地震対策など、博物館の現場ならではのトピックを取り上げ、受講者に提供した。
- ・博物館セミナーは受講者の学習に役立つのみならず、未来の文化財保護を担う大学生に対し、 博物館のメッセージを直接伝える場としても有効であった。
- ・教育連携事業では、博物館事業の諸側面に関して、少人数に対する講義・実習を行い、博物館と文化財へのさらなる愛着や理解を促進した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	キャンパスメンバーズ加入校	22 校	_	_	

中期計画期 中期計画に対して、順調に成果を上げている。 間における進 捗状況

施設名 京都国立博物館

処理番号

0902

中項目 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供

事業概要 日本及び東洋の文化財に対する理解の促進と教育普及を行う。

担当者 担当部課 学芸課

赤尾栄慶 事業責任者 企画室長

実績·成果

- ・土曜講座を土曜日の午後に開催(45回) *土曜講座 1600 回記念特別講座 (5/19)
- ・夏期講座「文化の波及と変容」を実施(8/1~3)
- ・小・中学生向け作品解説シート(博物館ディクショナ リー) を毎月発行(12回)
- ・博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、充
- 京都大学大学院人間・環境学研究科、歴史文化社会論 講座を担当
- ・キャンパスメンバーズを継続し、大学との連携を図る
- ・京都橘大学との連携を行い、解説ボランティアによる 展示解説を実施
- ・教員及び外国人モニターを委嘱し、学校教育への利用 や提言を受ける
- ・「留学生の日」(10/8) を実施
- ・「少年少女博物館くらぶ」(3/2) を実施



土曜講座 1600 回記念特別講座

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・土曜日の午後に実施している「土曜講座」が5月19日に1600回を迎えたことを記念して、 作家の永井路子氏に記念講座を依頼し、多数の聴講者を得て好評を博した。
- ・夏期講座の見学会については、環境省京都御苑管理事務所の協力を得て、「京都御苑閑院宮 邸跡」「旧九条家遺構拾翠亭」の見学会を実施し、好評を得た。
- ・博物館ディクショナリーを館内で配布することに加えて、各号ごとに京都市内の小中学校 約250校に配送した。
- ・京都大学大学院人間・環境学研究科の学生4名(1名が新規入学者)の指導を行った。
- ・キャンパスメンバーズを継続し、大学との連携の増加に努めた。(6校増)
- ・京都橘大学との連携を行い、解説ボランティアを10月18日から11月9日までの毎木・金 曜日に実施した。
- ・教員及び外国人モニターを委嘱し、種々提言の聴取に努めた。
- ・「留学生の日」に平常展の観覧無料を実施し、茶菓の接待も行った。また秋の特別展の招待 券をプレゼントし、日本文化への理解促進を図った。
- ・小中学生を対象とした「少年少女博物館くらぶ」を実施した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	講演会等参加者数	4,489 人	5,181 人	В	
	実施回数	48 回	_	_	
	うち土曜講座 参加者数	4,329 人	_	_	
	実施回数	45 回	_	_	
	うち夏期講座 参加者数	160 人	_	_	
	実施回数	3 日	_	_	
	キャンパスメンバーズ加入校	21 校	_	_	
1					

中期計画期 間における進 捗状況

(2) 歴史·伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供(7/10ページ目) 奈良国立博物館 (1/1ページ目)

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号

0903

中項目 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

歴史・伝統文化の理解促進

①学習機会の提供

事業概要

学校・社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会・ギャラリートー ク等の学習機会を提供する。

担当者 担当部課 学芸課教育室 事業責任者 | 教育室長 西山厚

実績·成果

- ・今年度から奈良市の小学5年生を対象に世界遺産学習を実 施。初年度の今年は30数校から2千を超える児童が来館 し、講堂と展示室で奈良の歴史と文化について学んだ。
- ・この事業を進めるため、奈良市に世界遺産学習検討委員会 が発足し、当館が指導的役割を果たしている。
- ・奈良市教育委員会と連携し、教員向けの講座を実施した。
- ・特別展等に際して公開講座やシンポジウムを、毎月第3日 曜にはサンデートークを、夏には夏季講座を開催した。ま た文化財修理に関する座談会を開催した。
- ・奈良女子大学及び神戸大学と連携講座を継続して実施し、 また放送大学の面接授業を実施した。
- ・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信して当館の活 動を広報し、キャンパスメンバーズ(大学会員制度)をさ らに拡充した。



世界遺産学習

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・2千人を超える小学校5年生に、奈良の歴史と文化の素晴らしさを伝えることができた。
- ・世界遺産学習等を通し、奈良市の行政と連携することができた。
- ・教員向けの講座は、例年を大幅に上回る参加者があり、博物館への理解を促進できた。
- ・奈良女子大学及び神戸大学との連携講座、放送大学の面接授業、奈良県内の小中学校への メールマガジン配信、キャンパスメンバーズ(大学会員制度)の拡充など、教育現場との つながりをさらに深めることができた。
- ・奈良市内には48の小学校があるが、世界遺産学習への参加校は、初年度は約7割にとどま った。

定量的評価	項目	実績	目標值	評価	
	講演会等参加者数	2,949 人	3,542 人	В	
	実施回数	30 回	_	_	
	うち特別展等講座 参加者数	1,943 人	_	_	
	実施回数	15 回	_	_	
	満足度	87%	_	_	
	うち夏季講座参加者数	358 人	_	_	
	実施回数	3 日	_	_	
	満足度	84%	_	_	
	うちサンデートーク参加者数	648 人	_	_	
	実施回数	12 回	_	_	
	小中学校へのメールマガジンの配信	220 校	220 校	Α	
	放送大学面接授業	150 人	150 人	Α	
	キャンパスメンバーズ加入校	20 校	_	_	

中期計画期 間における進 捗状況

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供(8/10 ページ目) 九州国立博物館(1/3 ページ目)

【書式A】

施設名

九州国立博物館

処理番号

 $\overline{0}904 - 1$

中項日	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	-

事業名 (2) 歴史・伝統文化の理解促進

① 学習機会の提供

(1/3)

事業概要

- ① 博物館における体験型事業の充実を図る。
- ② 家族向けに平常展を利用したPDA (携帯情報端末)によるプログラムを開発する。

担当者	担当部課	①交流課、展示課	事業責任者	①主任研究員	永井真佐美
		②展示課		展示課長	赤司善彦
				②展示課長	赤司姜彦

実績·成果

- ①-1 体験学習ゾーン「あじっぱ」において、子供・大人を対象に博物館学芸員の仕事の一部を体験してもらうワークショップ「なりきり学芸員」を、教育普及ボランティアとの協働で、毎週1回実施することができた。また、アジアの文化に直接触れる体験展示「あじ庵」を半期ずつ「韓国」・「タイ」をテーマに実施した。
- ①-2 特別展と連動し、こどもガイドを2冊、ワークショップを5回、「日本のやきもの」展での「やきもの占い」、「京都五山禅の文化」展での「禅問正解」といった参加型プログラムを実施した。また、文化交流展示での体験型展示の充実を図った。
- ② PDA (携帯情報端末) を利用した展示ガイダンスシステム のプログラム開発にあたっては、設計段階から来館者の展示品 に対する関心や、展示室での行動、コンテンツ満足度等に関する研究を徹底的に行う必要がある。

今年度、九州大学大学院芸術工学府 金大雄研究室との共同研究により、ガイダンスコンテンツ設計・評価のための基礎調査を実施した。

・6月19日~7月19日に、日本人1,187名、外国人384名の 来館者アンケート(展示解説機器についての意識調査)を実施。 また、11月3日~21日の間で、音声解説機器の利用者行動デ ータを取得した。



「あじ庵」での韓国体験展示



アンケート調査の状況

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ①-1 来館者に学芸員の楽しさを味わってもらうことができた。アジア各国の文化と日本文化 との比較を、来館者に直接体験で感じていただくことができた。
- ①-2 特別展で陳列された展示作品の魅力を違った形で引き出すことができ、子供も楽しめる プログラムとなり、入場者の新たな確保につながった。
- ②については以下のとおりである。
 - ・来館者の音声ガイド機器の利用形態と意識が概ね把握できた。
 - ・来館者がどのような解説コンテンツを求めているのかが理解できた。
 - ・利用者行動データのうち、中国人来館者のデータ量が少なかった。
 - ・解説コンテンツの制作・更新・提供・評価の一連のプロセスを標準化するための方策及 び容易な導入(費用効果・満足度アップ)の方策を改善しながら進めていく必要がある。

定量的評価	項目	実績	目標值	評価	
	なりきり学芸員	45 回		_	
	あじ庵の展示替	2 回	_	_	
	特別展ワークショップ	5 回	_	_	
	文化交流展示遣唐使船	1 回	_	_	
	拡充工事				
	基礎調査アンケート	1,481名	_	_	
	追跡調査(外国人)	102名	_	_	

中期計画期間における進 ります。 お状況

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供(9/10ページ目) 九州国立博物館(2/3ページ目)

【書式A】

施設名

九州国立博物館

処理番号

0904 - 2

中項目 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名 (2)歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供

(2/3)

事業概要

- 学校教育との連携事業を実施する。
- シンポジウムや特別展記念講演会を開催する。 (4)

担当者 担当部課 交流課 事業責任者 主任研究員 永井真佐美 企画課 文化交流展室長 河野一隆

実績·成果

③の実績

- ・学校貸出キット「きゅうぱっく」完成・運用
- ・中学生の職場体験(7校40名)
- ・高校生のジュニア学芸員活動(8回 7校21名)
- ・博物館実習 (8/6~8/17 8/20~8/31 各 10 日 24 名)
- インターンシップの受け入れ(3/4~3/93名)
- ・筑紫女学園大学との連携によるガムランワークショップ(7回)
- ・福岡教育大学との連携による「掛け軸」ワークショップ $(8/4 \cdot 8/5)$
- 教育センター専門講座(6/19)
- 「日本のやきもの」教員対象内覧会(7/9)
- ・「東大資料編纂所展(仮称)」出品予定の一部資料を県内高 校教員に学芸員が解説
- ④ 特別展では複数回の講演会を実施した。外部講師による より親しみやすい内容のものと、館内研究者による学術的 な色彩の濃いものという二種類の形態とし、様々な層の要 望に対応できるものとしつつある。



高校生のジュニア学芸員活動

定性的評価

(目標に対す る成果の達成 状況)

③について

- ・中学生の職場体験は、警備や総合案内、清掃のスタッフの協力も得て、館全体の取り組み として定着しつつある。
- ・高校生のジュニア学芸員活動は、博物館の活動を学校に理解してもらうきっかけになった だけでなく、高校生自身の職業観の育成につながった。
- ・福岡教育大学との連携による「掛け軸」ワークショップでは、館内の学芸員との連携が必 要であることを痛感した。
- ・学校貸出キット「きゅうぱっく」は、学習指導要領に対応した完成度の高いものになった が、運用に関してはまだ検討が必要である。
- ・博物館実習は館独自の日誌と評価表を作成したことで、事務処理がスムーズになった。
- ④ PDA の導入には到っていないが、展示解説機器と来館者動向の調査の結果、客観的なデー タを取得することができ、展示解説機器の使用対象を絞り込むことが出来た。

定量的評価	項目		実績	目標値	評価	
	講演会等 参加者数	_	4, 168 人	5,255 人	В	
	実施回数		61 回	_	_	
	うちミュージアム講座	参加者数	640 人	_	_	
	II.	実施回数	11 回	_	_	
	うち特別展記念講演会	参加者数	1,892人	_	_	
	II.	実施回数	7 回	_	_	
	うちシンポジウム	参加者数	316 人	_	_	
	JJ	実施回数	1 回	_	_	

中期計画期 間における進 捗状況

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供(10/10ページ目) 九州国立博物館(3/3ページ目)

【書式A】

施設名

九州国立博物館

処理番号

0904 - 3

中項日	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
1 11.25	

事業名 (2) 歴史・伝統文化の理解促進

① 学習機会の提供

(3/3)

事業概要

- ⑤ ギャラリートークを随時実施する。
- ⑥ 文化施設等へ講師を派遣する。
- ⑦ 近隣大学等と文化財保存技術に関する共同研究を計画する。
- ⑧ 放送大学の面接授業を実施する。(5人)
- ⑨ 近隣大学との連携を図るため、キャンパスメンバーズ(大学会員制度)を導入する。

担当者	担当部課	展示課	事業責任者	研究員	森井啓次
		企画課		企画課長	伊藤嘉章
		総務課		総務課長	浅井浩文

実績·成果

⑤毎週火曜日(火曜休館の週はお休み)に研究員によるミュージアムトークを実施した。(月3~4回で15分~30分程度)1回の参加人数は平均30名程度となっている。

講師の調整は担当研究員が行っているが会場の案内や 資料印刷などはボランティアの手による。一般の聴講だけ でなく、展示解説ボランティアの学習の場ともなってお り、博物館事業として定着してきた。

- ⑧放送大学の面接授業を当館で実施した。講師には、5人の研究員を派遣している。(参加者数:34人)
- ⑨大学・専門学校・高校合わせて 21 校の教育機関が入会した。また、会員校に対し特別展の出張講義を実施した。



ミュージアムトーク実施状況

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ⑤・滞りなく定期的に実施されており(月3~4回)、一定数の聴講を得ている。
 - ・全研究員が担当し、キャプションだけでは伝えられない情報を来館者に対して伝えることができている。
 - ・開催の告知方法(現在公式 HPと4階インフォメーションのみ)を充実させる必要がある。
 - ・聴講者数の増加(50名程度)させる方法を考える必要がある。
- ⑧放送大学の面接授業は好評を博した。今後も継続して実施していく。
- ⑨19年度に制度を発足させることができ、大学・専門学校・高校合わせて21校の教育機関に 入会いただくことができた。

講演会等のうち				1
ミュージアムトーク 参加者数	1,320 人	_	_	
ッ 実施回数	42 回	_	_	
放送大学面接授業の実施(参加者数)	34 人	5人	A	
キャンパスメンバーズ加入校	21 校	_	_	
放送大学面接授業の実施(参加者数)	34 人	- 5 人 -		_ A _

中期計画期 間における進 捗状況

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-1 ボランティア活動の支援(1/4 ページ目) 東京国立博物館 (1/1 ページ目)

【書式A】

施設名

東京国立博物館

処理番号

1001

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(2)歴史・伝統文化の理解促進

②-1ボランティア活動の支援

事業概要

各種教育普及事業の補助活動の充実を図ることで来館者の生涯学習機会の増大及びサービスの向上を図る。またボランティア活動を支援しボランティア自身の自主的な企画立案による活動の充実と生涯学習機会の増大を図る。

担当者 担当部課 教育普及課

事業責任者 ボランティア室長 鷲塚麻季

実績·成果

- 1)各種教育普及事業の補助活動の充実
 - ・表慶館みどりのライオン「体験の間」等で実施するハンズ オン体験コーナーにおける来館者の作業補助に当たること で参加者の平常陳列に対する関心を高めることができた。 ハンズオン体験コーナー利用者数(H19.4.17~H20.3.31現 在) 35,451人
 - ・就業体験の受け入れ

近年増加する需要に対して、生徒の活動の補助を行な うことに貢献し、ボランティア自身も新鮮な活力を得ら れた。



「留学生の日」の茶会の様子

- ・ 各種イベントの補助
 - 通常の活動時間外の各種イベントでも補助に当たり、博物館の活用範囲の拡大に 努めた。 補助回数 8回
- 2) ボランティア自身による自主的な企画立案による活動の充実
 - ・ボランティアによる自主的な企画

来館者の希望にそったわかりやすい内容の各種ガイドツアーを実施することができた。また、一部の活動はボランティア間の連絡調整役も担った。

「たんけんマップ」発行部数 13,350部

ボランティア広報(季刊) 3号

- 3)各種解説ツアーの実施
 - •12種類のガイドツアー等を実施することで来館者の作品鑑賞の手助けを行うことができた。

実施回数 476回

参加人数 9,514人

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・各種教育普及事業の補助、ボランティア自身による自主的な企画立案による活動、各種解 説ツアーの実施により、来館者の生涯学習機会の増大に寄与し、来館者へのサービスの向 上をはかることができた。
- ・各種ボランティア活動を通じてボランティアを育成し、相互協力により教育普及活動の充 実が図られてきている。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	ボランティア数	162 人	_		1
	うち生涯学習ボランティア	153 人	_	_	
	うち東京芸術大学学生ボラン	9 人	_	_	
	ティア				

中期計画期 間における進 捗状況

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-1 ボランティア活動の支援(2/4ページ目) 京都国立博物館 (1/1ページ目)

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号

1002

文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 中項目

学芸課

事業名

担当者

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-1 ボランティア活動の支援・資質向上

事業概要 日本及び東洋の文化財に対する理解の促進と教育普及を図る。

担当部課

事業責任者 企画室長 赤尾栄慶

実績·成果

・大学(京都橘大学)との学術協定に基づき、学生が解説ボラン ティアとして活動した。

10月18日から11月9日までの毎木・金曜日に、1日3回、 考古・陶磁・彫刻の展示作品について、当館職員による事前講 習ののち、来館者に解説を行った。

・調査・研究支援ボランティアの募集と各種事業活動の充実を進 めた。当館職員が行う収蔵品調査、社寺調査等の調査・研究業 務の補助として、調査作品の計測、調書の作成、撮影等を行っ た。また、展示替えの際、作品の移動、収納等の作業の補助を 行った。



解説ボランティア

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・大学(京都橘大学)との連携を行い、10月18日から11月9日までの毎木・金曜日に、平 常展示館1階の考古・陶磁・彫刻の展示作品について、午後1時、2時半、4時からの3回 の解説を行った。
- ・調査・研究支援ボランティアの募集を行い、社寺調査をはじめとした各種の調査研究活動 に参加し、活動のスムーズな実施と充実を図った。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	ボランティア数	23 人	_	_

中期計画期 間における進 捗状況

計画通りに実施し、順調に成果を上げている。

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-1 ボランティア活動の支援(3/4 ページ目) 奈良国立博物館 (1/1 ページ目)

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号

1003

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(2) 歴史・伝統文化の理解促進

②-1ボランティア活動の支援・資質向上

事業概要

教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。

実績·成果

- ・学習機会の増加に対応するため、ボランティアを増員した 〈現在 96 名〉。
- ・毎日 14 名平均のボランティアが、展示室等で来館者への 解説・質問への回答等の活動を続けている。
- ・展示替えや特別展等の開催にあたり、ボランティア研修を おこない、来館者に正しい情報を伝えられるよう指導助言 した。
- ・ボランティアの相互交流と自己研修に資するため、ネット ワークの構築に協力し、さまざまな情報を提供した。
- ・正倉院展の際に、講堂でボランティアによる解説 (コンテンツは教育室で作成)をおこなった。
- ・小学 5 年生による世界遺産学習の開始に伴い、「世界遺産 のあるまち奈良」のコンテンツを教育室で作成、ボランティアへ研修をおこなった。今年度は30 数校、2 千余人の児 童が来館、ボランティアが対応した。



展示室内ボランティア

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・学習機会の増加に伴い、ボランティアを増員した〈現在96名〉。
- ・毎日14名平均のボランティアが来館者に対応し、好評を得ている。
- ・ボランティア相互のネットワークを構築した。
- ・世界遺産学習を体験した小学校及び児童からボランティアへの感謝が相継いでいる。
- ・新人ボランティアへの研修システムが十分には機能しておらず、ベテランボランティアとのレベル差を埋めるのに時間がかかる。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	ボランティア数	96 人	_	_

中期計画期 間における進 捗状況

(2) 歴史·伝統文化の理解促進 ②-1 ボランティア活動の支援(4/4ページ目) 九州国立博物館(1/1ページ目)

【書式A】

施設名

九州国立博物館

処理番号

1004

中項目 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-1 ボランティア活動の支援・資質向上

事業概要

- ① ボランティアを受け入れ、展示解説、教育普及、館内案内、外国語通訳、IPM(総合 的有害生物管理)及びイベントの充実を図る。
- ② ボランティアに対し継続的な基礎研修・専門研修を実施する。
- ③ ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。

担当者 担当部課 交流課 事業責任者 主任研究員 糸井 茂

実績·成果

〈活動実績〉

- ①展示解説ボランティア→文化交流展示室で解説
- ②教育普及ボランティア→「あじっぱ」で来館者対応
- ③館内案内ボランティア→館内・バックヤードの案内
- ④外国語通訳ボランティア→英語、中国語、韓国語で館 内・、バックヤードの案内
- ⑤環境ボランティア→IPM(総合的有害生物管理)活動 に関する支援
- ⑥イベントボランティア→正月、七夕イベント等の企画・ 立案・実施
- ⑦学生ボランティア→春・夏休みのイベント企画・立案・ 実施(大宰府市民吹奏楽団との共催コンサート実施)
- ⑧出前講座の実施→4回
- ⑨活動実績報告書の刊行

(対応来館者数)展示解説(6,332人)、館内案内(6,684人)

バックヤードツアー(3,443人)

〈研修会〉

- ①全体研修会→17回
- ②班別(部会別)研修→105回
- ③グループ研修 54回



人と自然の博物館における 出前講座

定性的評価 (目標に対す る成果の達成

状況)

① 開館当初に館が提案したボランティア活動をベースに来館者サービスの視点に立った活 動に変化してきた。

② グループ研修では、研修が達成されていないボランティアのサポートをボランティアが行

- った。 ③ 第2期ボランティアの実習を第1期ボランティアが行った。

 - ④ ボランティアと館で工夫して出前講座を4回実施した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	1
	ボランティア数	293 人	_	_	

中期計画期 間における 進捗状況

(2) 歴史·伝統文化の理解促進 ②-2 博物館支援者の増加(1/4ページ目) 東京国立博物館 (1/1ページ目)

【書式A】

施設名

東京国立博物館

処理番号

1101

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-2 博物館支援者の増加 事業名

事業概要 友の会等の会員制度の活動の活性化を図り、賛助会制度の継続・拡充、地域や企業との連携 を推進する。

担当者 担当部課 営業開発部渉外課 事業責任者 渉外課長 庄司幸浩

実績·成果

1) 友の会・パスポート・平常展割引パス 会員数

5	種別	19 年度	(参考) 18 年度
友の	会(1万円)	1,341 人	1,379 人
	一般	1万5,232人	1万8,742人
	※ (4,000円)	1万5,232人	4,401 人
パスポート	(3,000円)	ļ	1万4,341人
) ,) , (A) -	学生	803 人	1, 193 人
	※ (2,500円)	803 人	448 人
	(2,000円)		745 人
平常展割引	パス(2,000円)	39 人	14 人

- (注) ※印は、料金改正(18年10月1日~)以降の数字
- ・「友の会」「パスポート」について、新たにオンラインによる申し込み受付を開 始した。(利用者 6名)
- 2) 賛助会 ① 会員数

	19年度	(参考)18年度
特別会員	16団体	17団体
維持会員	24団体・個人123人	22団体・個人108人

- ② 会員対象の特別鑑賞会等の実施 特別展内覧会 4回 事業報告会 1回
- 3) 地域、機関との連携
- ①上野のれん会、上野法人会、台東区および台東区所管財団法人、上野の山文化ゾーン協議 会、東京都、財団法人東芝国際交流財団、株式会社東京美術、三菱商事株式会社等と連携 し、さまざまな事業を行った。

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- 1)・「友の会」「パスポート」のオンライン申込みサービスにより、さらに申込者の利便 性を高めた。
 - ・友の会会員向けの旅行会においては、正倉院展の期間が早々には決まらなかったため、 最少催行人数での開催となった。好評な旅行会であったが、さらに自由行動時間を増 やすなど、より会員のニーズを考慮した旅程を計画する必要がある。
- 2)・団体維持会員・特別会員については厳しい状況が続いている。企業等に対する積極的 なアプローチを考えていきたい。
 - ・個人の維持会員数は前年度同様、順調に伸びている。
- 3)・地域との連携事業を進めるためには、相互の資源を活かしあえる企画を、展示計画と 連動させつつ早期に立てることが重要である。
 - ・地域との連携においては、お互いの資源を活かしたより質の高い事業が企画、展開で きるようになってきている。
 - ・企業との連携・拡充を今後さらに推進していくためには、企業側にも魅力となるよ うな工夫を図っていく必要があると思われる。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	友の会会員数	1,341 人	_	_
	パスポート会員数	16,035 人	_	_
	賛助会員 特別会員数	16 団体	_	_
	維持会員数	24 団体 123 人	_	_

中期計画期 間における進 捗状況

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-2 博物館支援者の増加(2/4ページ目) 京都国立博物館 (1/1ページ目)

【書式A】

施設名

京都国立博物館

処理番号

1102

中項目 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-2 博物館支援者の増加

企業との連携及び「友の会」活動の活性化を図る。 事業概要

担当者 担当部課 総務課 学芸課 事業責任者

総務課長 大西真一

企画室長 赤尾栄慶

実績·成果

- ・支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。
- ・企業との連携により、施設を活用したイベントの実施 及び広報活動の充実を図る。
- ・「友の会」事業を継続して実施した。 会員数 3,224 人



バロックコンサート

定性的評価 (目標に対す る成果の達成

状況)

- ・支援団体(社団法人清風会)が行う鑑賞会(5回)・見学会(4回)・会報(4回)に協力し、 活性化を図った。
- ・企業との連携によるオペラコンサート(2回)を実施し、バロックコンサートやバレンタイ ンコンサート、更には落語家の桂米朝氏の米朝事務所の制作協力による「らくご博物館」(4 回)を実施した。合わせて、特別展などの広報を行った。

定量的評価	項目	実績	目標值	評価
	友の会会員数	3,224 人	_	_

中期計画期 間における進 捗状況

計画に従って、順調に成果を上げている。

(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-2 博物館支援者の増加(3/4ページ目) 奈良国立博物館 (1/1ページ目)

【書式A】

施設名

奈良国立博物館

処理番号

1103

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(2) 歴史・伝統文化の理解促進

②-2博物館支援者の増加

事業概要

会員制度である友の会・賛助会の継続及び拡充を図る。 また、地域や企業との連携及び拡充を図る。

担当者

担当部課 総務課渉外室

事業責任者

渉外室長 植田義雄

実績·成果

友の会

会員数 2,439 人 (一般 2,215 人、学生 206 人、家族 18 人)

• 賛助会

特別支援会員 5 団体

特別会員 1団体

一般会員(個人)25人、(団体)14人

- ・特別展「神仏習合」「美麗 院政期の絵画」実施につき、企業から協力金獲得
- ・図録の低廉化を目的に、親と子のギャラリー「仏さまの彩り」図録に企業広告枠を設け、7社の広告を掲載した。(図録は200円で販売)
- ・奈良の観光イベント「ライトアッププロムナード・なら 2007」、「なら燈花会」に協力
- ・大和郡山市の協力により「博物館で金魚すくい」を入館者 無料で実施



賛助会芳名板



博物館で金魚すくい

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・友の会会員数は、18年10月の料金改定に伴う使用条件変更の影響もなく順調に伸びている。 今後も広報活動を積極的に行う。
- ・賛助会を従来の特別及び一般会員に、特別支援会員(100万円以上)を追加し、より多額の支援を獲得する体制となり、民間企業などに賛助会制度を積極的に広報した結果、5団体が特別支援会員になった。
- ・図録への企業広告掲載は初の試みであり、図録の低廉化を実現するとともに、企業などと新たな連携の構築ができた。
- ・特別展実施につき企業から協力金として外部資金を獲得できた。企業の社会貢献活動と当 館展示で相乗効果が図れるような協力体制の実現を目指す。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	友の会会員数	2,439 人	_	_
	賛助会数 (総数)	45 会員	_	_

中期計画期 間における進 捗状況

(2) 歴史·伝統文化の理解促進 ②-2 博物館支援者の増加(4/4ページ目) 九州国立博物館 (1/1ページ目)

【書式A】

施設名

九州国立博物館

処理番号

1104

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(2) 歴史・伝統文化の理解促進

②-2 博物館支援者の増加

事業概要

- ① 賛助会員制度を設置し、会員の獲得に努める。
- ② 財団や近隣地域等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長	浅井浩文
		交流課		事務主査	元永行英
		広報課		広報課長	石橋和夫

実績·成果

- ① 他館を参考として最適な会員制度設計を模索している。
- ② 友の会会員数 167人
- ③・九州国立博物館振興財団と共にシンポジウムを実施した。また、九州の多様な自治体や、地域の団体等と協力をして各種イベントを開催した。
 - ・財団や近隣地域等と連携したイベントについて、記者クラブへの情報提供を行った。



朝鮮通信使 400 周年記念イベントに係るセレモニー

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ① ・賛助会員制度においては、種々検討を行ったが、当館の運営上の諸課題(福岡県、九州国立博物館振興財団など)により実施設計に至っていない。新しい収入確保のために制度作りに努めたい。
- ② ・九州国立博物館振興財団と連携して「朝鮮通信使 400 周年記念国際シンポジウム」を 開催することにより、開館前から支援をいただいている財団との協力体制を強化した。
 - ・九州国立博物館を愛する会と共催で第12回九博デー「文化を未来につたえるために・・・」を開催して、地域の支援団体との連携を強化した。
 - ・地元の福岡女子大学と連携して、館内のカフェにおいて定期的にコンサートを開催して、地元の教育機関との連携を図るとともに、来館者サービス及び施設の有効利用を 促進した。
 - ・内容を勘案したうえで、自治体や文化団体等が主催するイベントを開催して、各団体との連携を強化するとともに、来館者サービス及び施設の有効利用の促進を図った。 またそれらを PR することにより、来館者の拡大を図った。
 - ・博多山笠や九州のひなまつりの展示等を通して、地域の代表的なお祭りを来館者に紹介した。
 - ・地元の新聞、テレビで数多く取り上げられた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	友の会会員数 パスポート会員数	167 人	_	_
	パスポート会員数	3,252 人	_	_

中期計画期 間における進 捗状況

(3) 快適な観覧環境の提供 ① 快適な観覧環境の提供(1/8ページ目) 東京国立博物館 (1/5ページ目)

【書式A】

施設名「

東京国立博物館

処理番号

1201-1

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(3) 快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境提供 (1/5)

事業概要

1)18年度に作成した点字解説等を配布する

18 年度に作成した点字による本館「日本美術の流れ」展パンフレットを視覚障害のある来館者に配布する。

担当者 担当部課 教育普及課 事業責任者 ボランティア室長 鷲塚麻季

実績·成果

- ・視覚障害のある方に本館「日本美術の流れ」展を理解してもらうために、よりわかりやすい解説を盛り込んだ点字版パンフレットを配布した。配布部数9部。
- ・本年度あらたに10部を増刷した。

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- 視覚障害のある方が展示を理解するための有効な手段として利用された。
- ・ 当館のバリアフリー化の促進に寄与した。
- ・ 今後広報の方法を検討し、より多くの方々に利用してもらえるようにしたい。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	配布部数	9 部	_	_
	増刷部数	10 部	_	_

中期計画期 間における進 捗状況

(3) 快適な観覧環境の提供 ① 快適な観覧環境の提供(2/8ページ目) 東京国立博物館(2/5ページ目)

【書式A】

施設名

東京国立博物館

処理番号

1201-2

文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 中項目

事業名

快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境の提供 (2/5)

事業概要

2) 多国語による案内及び誘導サイン等の整備 多国語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。

担当者

担当部課 事業企画課

事業責任者 | デザイン室長 木下史青

実績·成果

- 本館特別5室・特集陳列『仏像の道ーインドから日本へー』 の展示解説において、通常の和文・英文表記に加え、 韓国語と中国語表記による解説を製作した。
- ・ このような4カ国語による作品の個別解説は、当館の平 常展示においては初の試みとなるものである。
- ・ 通常のような展示ケース内での題箋・解説の掲出方法 とは異なり、展示室内で持ち歩くことが可能な解説ボ ードに個別解説を集約させた。このことにより、展示 形式上の情報の煩雑さを解消することができた。



本館特別5室[仏像の道] 解説ボード (韓国語、中国語)

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- 館内の基本的な総合案内サインでは4ヶ国語表記がなされている。また多国語による総合 案内マップも館内各所において無償提供されているため、お客様への基本情報の提供は達 成されている。
- ・ 5ヶ所の展示館相互を連携した案内サインについては、日本語・英語表記による案内サイ ンは既に充実されているが、韓国語・中国語表記については、未だ整備されていないため、 今後の計画的な充実が望まれる。
- ・ 館内の展示案内、展示テーマ解説、個別の展示解説については、日本語・英語表記による ものは順次提供されているが、ハングル・中国語については、パンフレットではこれまで も提供されてきたが、展示室内では今年度実施された「仏像の道」が初の試みとなった。
- ・ 今回の韓国語・中国語解説は、当該語圏からの来館者へはおおむね好評と思われるため、 次年度以降も館内で連携して実施を続けることが望まれる。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価

中期計画期 間における進 捗状況

(3) 快適な観覧環境の提供 ① 快適な観覧環境の提供(3/8ページ目) 東京国立博物館 (3/5ページ目)

【書式A】

施設名

東京国立博物館

処理番号

1201-3

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(3) 快適な観覧環境の提供 ① 快適な観覧環境の提供 (3/5)

事業概要

3)より快適な観覧環境を構築するため、展示照明の整備より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。

担当者

担当部課 事業企画課

事業責任者

デザイン室長 木下史青

実績·成果

今年度は集中的に本館特別5室の展示照明の整備を行った。

- ・本館特別5室で実施された特集陳列『仏像の道-インドから日本へ-』の展示照明において、充分な展示照明が無かった展示室に新たな展示照明システムを設置した。
- ・その結果、窓からの自然光採光による照明が前提に設計されている、わが国でも稀有な天井高を持つこの大展示室の空間に、新たな展示の可能性を拓くことができた。
- ・また、彫刻作品をより効果的に見せる新設計のカッタースポット(フレーミングスポットライト) 照明器具を新たに導入した。
- ・さらに同展示においてEL板 (エレクトロバネッセンス照明パネル) 照明による館内の仏像展示案内サインシステムを設置 した。



■本館特別5室[仏像の道]

天井から 4,000mm×4,000mm 角のライティング・ダクトを4箇所設置し、カッタースポットライト約50灯による展示照明が行われている。

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・今回本館特別 5 室に、建築構造・設備・展示・照明の研究成果に基づき、より快適な観覧環境を構築するための展示照明を整備することができた。
- ・EL 板 (エレクトロルミネッセンス照明パネル) 照明による館内の仏像展示案内サインシステムを導入するなど新たな試みを展開した。
- ・予算との問題もあるが、今後も全館的視野で継続的により快適な観覧環境の構築をめざし 展示照明を順次整備する必要がある。

定量的評価	項目	実績	目標值	評価

中期計画期 間における進 捗状況

(3) 快適な観覧環境の提供 ① 快適な観覧環境の提供(4/8ページ目) 東京国立博物館(4/5ページ目)

【書式A】

施設名

東京国立博物館

処理番号

1201-4

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(3) 快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境の提供 (4/5)

事業概要

4)4カ国語日本語、英語、中国語、韓国語)パンフレットの制作

「日本美術の流れ」展示に関する 4 カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語)パンフレットを継続して制作する。英語、中国語、韓国語パンフレットに関してはより分かりやすい内容に改めたものを配布し、日本語パンフレットに関しては内容を再検討する。

担当者 ┃ 担当部課 ┃ 教育普及課・展示課・事業企画課 ┃ 事業責任者 ┃ 教育普及室長 小林牧

実績·成果

- ・ 「日本美術の流れ」展示のテーマ解説および主な展示作品の解説をまとめたパンフレットを日・英・中・韓の4ヶ国語で作成。作品の展示替えに応じて、「日本美術の流れ」パンフレットの4ヶ国語版を年間、計39回更新・制作(第89号-127号)した。
- ・ 外国人に「日本美術の流れ」を理解してもらうために、 よりわかりやすい解説を盛り込み、カラー図版を多用 した英語、中国語、韓国語カラーパンフレットを制作 した。
- 日本語パンフレットに関しては、現行のものを配布し ながら、内容に関する検討を継続して行った。



カラーパンフレット 英語版

定性的評価 (目標に対す る成果の達成

状況)

- ・ 展示を理解するための有効な手段として、外国からの多くの来館者に利用された。
- ・ ナショナルセンターとして、日本の伝統文化の理解促進に寄与した。
- ・ 英語、中国語、韓国語によるカラーパンフレットは、より基礎的な情報で構成したため、 わかりやすいと好評を得た。また、内容が作品の展示替えに左右されないので、長期間に わたって配布できるようになった。
- ・ 日本語パンフレットに関しては、外国語によるカラーパンフレットと同内容では、内容的 に来館者の満足が得られない面があるため、引き続き内容を再検討することとした。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	日本美術の流れ更新・制作回数	39 回	_	_

中期計画期 間における進 捗状況

(3) 快適な観覧環境の提供(1) 快適な観覧環境の提供(5/8ページ目) 東京国立博物館(5/5ページ目)

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号

1201-5

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(3) 快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境の提供 (5/5)

事業概要

5) 特別展において音声ガイドを活用した情報提供の推進 音声ガイドを観覧者に提供し、特別展の趣旨・展示構成・主な展示作品の理解を増進すること

により、観覧環境を快適にする。

担当者 担当部課 事業企画課 特別展室長 救仁郷秀明 事業責任者

下記の特別展で実施 実績·成果

・特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ―天才の実像」

148,540件

・足利義満六百年遠忌記念「京都五山 禅の文化」展

19,688件 57,681件

· 「大徳川展」

・陽明文庫創立70周年記念特別展「宮廷のみやび―近衞家1000年の名宝」30,532件

貸出数:計25万6,441台

定性的評価 (目標に対 する成果の 達成状況)

・音声ガイドについては、展示の趣旨や作品の理解の増進に役立っているが、一方では、会場 が混雑している場合には、混雑を助長しているとして貸出禁止を求める意見もアンケートに は多く寄せられている。

定量的評価	項目	実績	目標值	評価
	音声ガイド貸出件数	256,441 件	_	

中期計画期	
間における	
進捗状況	

(3) 快適な観覧環境の提供 ① 快適な観覧環境の提供(6/8 ページ目) 京都国立博物館 (1/1 ページ目)

【書式A】

施設名

京都国立博物館

処理番号

1202

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(3) 快適な観覧環境の提供

① 快適な観覧環境の提供

事業概要

- ・平常展示館建替に伴う先行工事の着手及び特別展示館の保全業務
- ・施設のバリアフリー化
- ・リーフレット、音声ガイドを活用した情報提供の推進

担当者	担当部課	総務課、学芸課	事業責任者	総務課長	大西真一
				学芸課長	森田 稔

実績·成果

- ・平常展示館の建替に伴う先行熱源設置工事が計画され、 まもなく開始される予定である。
- ・特別展示館の屋根補修及び外壁補修を実施した。
- 特別展示館耐震診断業務を実施した。
- ・平常展示館身障者用トイレの手すりを改修した。
- ・東の庭のベンチ、藤棚、散策用スロープを修復した。
- ・6 ヶ国語の「展示案内」リーフレットを制作した。 (日本語 30,000 部、英語 20,000 部、韓国語 16,000 部、 フランス語 10,000 部、中国語 5,000 部、スペイン語 10,000 部)



マナー講習会

- ・展示テーマごとに外国語(英語)パネルを設置した。
- ・特別展覧会において音声ガイドによる情報提供を実施した。

特別展覧会「藤原道長」: 4,596 台貸出 特別展覧会「狩野永徳」: 40,557 台貸出

特別展覧会「憧れのヨーロッパ陶磁」: 5, 191 台貸出

- ・特別展覧会「狩野永徳」において、観覧時間の延長、入館待ち時間をきめ細かく情報提供 するなど、観覧者の便を図った。
- ・当館職員並びに売店、レストラン従業員、京都古文化保存協会学生ボランティアを対象として「マナー講習会」を開催した。
- ・東山消防署の協力により、消防訓練を実施し、また、普通救命講習及びAEDの取扱い講習会を開催した。

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・平常展示館の建替に伴う先行熱源設置工事が開始される予定である。
- ・特別展示館については、近い将来発生が予想される花折断層地震へ対応すべく、耐震診断を行い、また、屋根を補修し、豪雨による漏水の予防対策を施した。さらに、外壁補修を 実施し、壁材剥落による観覧者への危害予防と、文化財の保全を図った。
- ・施設のバリアフリー化のため、平常展示館身障者用トイレの手すりを車椅子利用者がより 使いやすいものに改修した。また、東の庭のベンチ、藤棚、散策用スロープを修復し、東 の庭の観覧環境を改善した。
- ・特別展覧会「狩野永徳」において屋外での入館待ちが生じたため、日よけテントの設置、 自動販売機の増設等を行い、入館待ちのお客様に十分配慮した。
- ・6ヶ国語の「展示案内」リーフレットについては、内容が平常展示館に関するものが中心となっており、平常展示館建替に伴い掲載内容について検討する必要がある。

定量的評価	項目	実績	目標值	評価
	音声ガイド貸出件数	50,344件	_	_
	リーフレット	6ヵ国語	6ヵ国語	Δ

中期計画期
間における進
捗状況

【書式A】

施設名

奈良国立博物館

処理番号

1203

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(3) 快適な観覧環境の提供

①快適な観覧環境の提供

事業概要

より良い観覧環境を提供するため展示施設の計画的な整備、展示解説の充実や見やすい表示 等、利用者サービスの向上に努める。

担当者

担当部課

総務課渉外室

事業責任者

涉外室長 植田義雄

実績·成果

- ・重要文化財である仏教美術資料研究センターの耐震調査 を実施
- ・「正倉院展」では入場待ち列用テントを設営、看護師 の館内常駐を実施

また混雑緩和のため、定期的な入場制限・11月3日は団体 入場禁止・混雑状況をホームページなどに発表・陳列品の 配置と音声ガイド解説場所の考慮など実施

- ・AED(自動体外式除細動器)を展示館本館及び新館に 1 台ずつ設置
- ・毎月22日の「夫婦の日」割引(11月22日は無料)導入409組が利用(19年6月~)
- ・特別展「神仏習合」で割引チラシ、「美麗 院政期の絵画」 で後期再観覧半額券、「正倉院展」でオータムレイト券を 実施
- ・現金支払い不要の PiTaPa (関西私鉄共通の電子マネー) に加盟し、チケット購入時の利便性を高め、利用者サービス上につなげた。



入場待ち列用テント



AED

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・仏教美術資料研究センターの耐震調査を実施した結果、X・Yいずれの方向とも耐震要素となる壁量が不足しており、地震の震動及び衝撃に対して倒壊または崩壊する危険性が高いと判断された。よって20年度において補強案を策定することとした。
- ・「正倉院展」での入場待ち列用テントは、天候対策及び人員誘導に非常に役立ち、観覧者の 不満解消につながった。また、例年最も混雑する11月3日の団体入場禁止を各旅行会社へ 協力依頼・オータムレイト券(閉館1時間30分前以降に販売する割引券)の実施等により、 観覧者の分散化が図れ、正倉院宝物の保護と快適な観覧環境の実現に努めた。
- ・利用者が安心できる取組みの一環としてAED2台を設置した。また職員に緊急時の対処方 法の講習を実施し危機意識を高めた。
- ・新たに「夫婦の日割引」を6月から導入し、400組を超える利用があり入館者増加につながった。今後も実施中の割引制度「子供といっしょ割引」及び「レイト割引」とあわせて広報する。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	音声ガイド貸出件数	37,110件	_	_
	リーフレット	7カ国	7カ国	Α

中期計画期 間における進 捗状況

(3) 快適な観覧環境の提供 ① 快適な観覧環境の提供(8/8ページ目) 九州国立博物館 (1/1ページ目)

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号

1204

中項目	文化財を活用した	歴史・伝統文化の国内外への発信
一个块口		

事業名

(3) 快適な観覧環境の提供

① 快適な観覧環境の提供

事業概要

- ① 快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。
- ② 7カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語)リーフレットを継続して制作する。
- ③ 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。
- ④ 外国語のガイドブックを刊行する。

担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長	浅井浩文
		企画課		企画課長	伊藤嘉章

実績·成果

- ① 開館以来、1 階エントランスホールでは、元々自動販売機コーナーを予定していたスペースを応急仮設で救護室として利用していたが、正式な救護室として施設整備を行った。具体的内容は引き戸設置、空調設置、照明増設、手洗い器設置である。また、併せて水飲み器(2台)を来館者の目につきやすい場所に移設した。
- ② 前年度の内容を改善及び更新した上で、引き続き7カ国 語のリーフレットを制作した。翻訳等は、財団法人東芝国際交流財団からの助成金を頂き実現したものである。
- ③ 特別展ごとに展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを作成した。「京都五山 禅の文化展」では17万1,336人の入館者に対して2万4,204台の貸出し実績と好評を博した。
- ④ 外国語ガイドブックの刊行に向けて、来館者動向の調査 を、九州大学金大雄研究室と共同して実施した。ただ、刊 行にまではいたっていない。



7カ国語のリーフレット

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ①・救護室として本来あるべき内容(個室化、各設備の充実)に整備したことにより、利用者が安心して休める空間を提供できた。
 - ・4階にある救護室は入り口に階段があるため、車椅子利用者の入室が難しい。今後、段 差解消の対策が必要になる。
- ② 前年度に引き続き内容の改善等を行い、7カ国語のリーフレットを作成した。
- ③ 特別展では毎回音声ガイドを実施することは定着しており、今後はその内容をより高めることを目指している。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	音声ガイド貸出件数	74, 367 件	_	_
	うち特別展	62,661件	_	_
	うち文化交流展示	11,706 件	_	_

中期計画期 間における進 捗状況

(3) 快適な観覧環境の提供 ② 満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善(1/4 ページ目) 東京国立博物館 (1/1 ページ目)

【書式A】

施設名

東京国立博物館

処理番号

1301

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(3) 快適な観覧環境の提供

②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善

事業概要

来館者からの意見・満足度を聴取し、展示等に反映するほか、来館者のプロフィールを分析することにより、今後の戦略策定に役立てる。また、外部有識者などの専門家から意見を聴取し、博物館運営全体の改善に役立てる。

担当者 担当部課 総務企画課

事業責任者 総務企画課長 山内浩-

実績·成果

来館者からの意見聴取

- ・18年度に引き続き、来館者満足度調査を実施 (スタッフ呼び込みによる任意記入方式) 19年11月24日~12月8日(計4日間、997件)
- ・特別展等アンケート(任意記入方式) 計6回 レオナルド・ダ・ヴィンチ展 京都五山 禅の文化展 大徳川展 宮廷のみやび展 新規特集陳列「仏像の道」 新春企画「博物館に初もうで」



来館者満足度調査の様子

専門家からの意見聴取

・東京国立博物館評議員会(開催回数1回) ミュージアムショップのオリジナルグッズについての 助言があり、新規グッズの開発に着手

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・18 年度より実施している来館者満足度調査によって、東京国立博物館のロイヤルティが高い来館者像が分かりつつある。今後は、継続的に調査を実施するとともに、初めて来館する人がどのようにして来館を決定しているのかを探り、若年層など新たな来館者を開拓していくことを目指したい(新規来館率 20.7%)。
- ・特別展ごとに集計している来館者調査については、来館者満足度調査との統合を視野に、 効率的な運用ができるよう見直しを図りたい。
- ・有識者からの意見聴取については、新法人が設立された年ということもあり、選定に時間がかかり、意見を聴取する機会をあまり設けることができなかった。しかし、有識者からの意見は、直接運営を改善することに結びつくことも多く、大変有意義であるので、20年度は意見聴取の機会を増やし、より運営に結びつけていきたい。
- ・特別展アンケートでは、混雑のためかダヴィンチ展を始め、軒並み満足度が低かった。この結果を踏まえ、次年度以降の展覧会では、混雑対策など積極的に実施していきたい。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	来館者満足度(全体)	85. 5%	_	_	
	ダヴィンチ展満足度	66.9%	_	_	
	京都五山展満足度	70.7%	_	_	
	大徳川展満足度	70.4%	_	_	
	宮廷のみやび展満足度	78.3%	_	_	
	仏像の道満足度	70.9%	_	_	
	博物館に初もうで満足度	75. 6%	_	_	

中期計画期 間における進 捗状況

(3) 快適な観覧環境の提供 ② 満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善(2/4 ページ目) 京都国立博物館 (1/1 ページ目)

【書式A】

施設名

京都国立博物館

処理番号

赤尾栄慶

1302

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名 (3) 快適な観覧環境の提供

② 満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善

事業概要 一般入館者の満足度調査及び専門家の批評聴取を行う。

担当者 担当部課 学芸課 事業責任者 企画室長

実績·成果

入館者アンケートを実施

平常展満足度 72%

回答数 848件(とても良い45%、良い27%、普通14%、あまり良くない4%、良くない4%)

特別展覧会「藤原道長」満足度 91%

(回答数 729 件、良い 62%、まあまあ良い 29%、どちらともいえない 4%、あまり良くない 2%、良くない 1%)

特別展覧会「狩野永徳」満足度83%

(回答数 3,719 件、良い59%、まあまあ良い24%、どちらともいえない5%、あまり良くない3%、良くない4%)

特別展覧会「ヨーロッパ陶磁」満足度 91%

(回答数 724 件、良い 61%、まあまあ良い 30%、どちらともいえない 4%、あまり良くない 2%、良くない 1%)

・特別展等に関する専門家の展覧会評を求め、「博物館だより」に掲載した。

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・平常展及び特別展についての入館者アンケートを実施した。特に回答する必要のある場合は、電話等で回答し、特別展に関しては、アンケートの結果を事後検討会で報告し、今後の検討材料とした。アンケートの満足度では、非常に高い評価を得ている。
- ・2006年秋の特別展「京焼―みやこの意匠と技―」及び2007年春の特別展「金峯山埋経一千年記念 藤原道長―極めた栄華・願った浄土―」に対する専門家の評を「博物館だより」(年4回発行)に掲載した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	平常展満足度	72%	_	
	藤原道長展満足度	91%	_	_
	狩野永徳展満足度	83%	_	_
	ヨーロッパ陶磁展満足度	91%	_	_

中期計画期 間における進 捗状況 順調に成果が上がっている。

(3) 快適な観覧環境の提供 ② 満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善(3/4ページ目) 奈良国立博物館(1/1ページ目)

【書式A】

施設名

奈良国立博物館

処理番号

1303

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

(3) 快適な観覧環境の提供

②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善

事業概要

一般入館者及び専門家を対象に満足度調査を定期的に実施し、調査結果を展示等に反映させるほか、必要なサービス向上に努める。また特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。

担当者 | 担当部課 | 総務課渉外室 | 事業責任者 | 渉外室長 植田義雄

実績·成果

- ・平常展アンケート(全開館日)
 - 回答数 975件(良い 66%、普通 11%、良くない 3%)
- ・英語版平常展アンケート(全開館日)

回答数 84 件

特別展アンケート

「神仏習合」

回答数 172件(良い 77%、普通 13%、良くない 4%)

「美麗 院政期の絵画」

回答数 82 件(良い 84%、普通 13%、良くない 1%)

「正倉院展」

回答数 865件(良い 68%、普通 17%、良くない 12%)

・特別展及び特別陳列について、専門家からの展覧会評を「博物館だより」に4回掲載

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・平常展アンケートの回答数が昨年度より減少した。アンケートに協力いただけるようアンケート記入場所を分かりやすくする。
- ・「正倉院展」アンケート結果のうち、「良くない」の回答率が昨年度(17%)より減少した。 「良くない」回答理由で最も多かった混雑について、今年度は団体規制や混雑状況表示によりに観覧者の分散化を図ったことが、減少した一因と考えられる。今後もアンケート結果を反映させ、満足度向上に努める。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	平常展満足度	66%	_		
	神仏習合展満足度	77%	_	_	
	院政期の絵画展満足度	84%	_	_	
	正倉院展満足度	68%	_		

中期計画期 間における進 捗状況

(3) 快適な観覧環境の提供 ② 満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善(4/4ページ目) 九州国立博物館 (1/1ページ目)

【書式A】

施設名

九州国立博物館

処理番号

1304

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

- (3) 快適な観覧環境の提供
 - ② 満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善

事業概要

- ① 入館者のニーズを引き出すため入館者調査を実施し、その結果を改善に生かす。
- ② 九州大学との共同研究(ユニバーサル・ミュージアム・プロジェクト)を立ち上げ、ユニバーサルデザインに配慮した、誰もが快適に利用できる博物館を目指し、各種調査およびクオリティカルテによる空間評価を実施し、問題解決のための提案を行うことを目的とした共同研究である。

担当者	担当部課	広報課	事業責任者	広報課長	石橋和夫
		総務課		総務課長	浅井浩文

実績·成果

- ①毎日、任意で入館者にアンケート調査を実施し多数の意見、要望が寄せられた。
- ②モニターを活用し、空間評価調査を実施する。まず日頃から問題意識をもち生活している生活者の代表として調査会社にモニター登録している人の中から、さまざまな意見を抽出した。これらの意見をもとに調査手法を構築し、次年度以降に観光的に訪れる来館者や非健常者を対象とした調査を実施し、多様な来館者の九州国立博物館に対する評価を明らかにする。その後、評価結果を踏まえ改善計画へと結びつける。
- ③外国語ガイドブック作成に向けた調査を行った。





モニター調査報告書 (表紙)

定性的評価 (目標に対す る成果の達成

状況)

- | ① 寄せられた意見、要望のうち可能なものについては改善を図った。
- ② 通常のアンケートとは異なるデータを採取でき、新たに気づかされる問題点が多々あった。これを受けて、来館者の満足度を高めるために改善しなければならない点があるため、 早急に改善したい。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	未来への贈り物展満足度	85.0%	_	_
	日本のやきもの	87.3%	_	_
	本願寺展	89.9%	_	_
	京都五山展	76.4%	_	_

中期計画期 中期計画に対し、順調に成果を上げている。 間における進 捗状況 (3) 快適な観覧環境の提供 ③ ミュージアムショップやレストラン等の改善(1/4 ページ目) 東京国立博物館(1/1 ページ目)

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号

1401

中項目 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

- (3) 快適な観覧環境の提供
 - ③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

事業概要

ミュージアムショップやレストラン等の利用者サービスの向上に努める。 また、ミュージアムショップの改装に当たって、企画・デザインに協力する。

担当者 担当部課 営業開発部渉外課 事業責任者 渉外課長 庄司幸浩

実績·成果

- ・ミュージアムショップについて、ショップを運営する東 京国立博物館運営協力会(以下「協力会」という。)と、 「ミュージアムショップグッズ開発等会議」を開催し、 商品の充実及びオリジナル商品の製作について協議・検 討を行った。
- ・新たな絵はがき作成について、3年計画中2年目の今年度 は、24種類を作成した。
- ・協力会と協議しながら、ショップの来店者数調査及びア ンケート形式による「ミュージアムショップ意識調査」 を実施し、今後の商品の充実や改善を図るための基礎デ ータを得た。
- ・協力会のミュージアムショップ改装計画に、博物館のデ ザイン室が企画・監修として参加し、「和」の雰囲気を アピールすることを基本として、お客様の立場に立った ディスプレイ、空間デザイン等を構築し、リニューアル オープンした。
- ・レストランでは、正月にお年玉プレゼントや甘酒の振る 舞いサービスの実施、季節毎にメニューを変える等サー ビスの向上に努めた。
- カフェの「アジアンカフェ」では、店内を改装し、メニ ューに軽食を加える等の見直しを行い、より手軽にご利 用いただけるようリニューアルオープンした。
- お客様から要望の多い、「手軽に飲食できる場所を増 やして欲しい」等のご意見をふまえ、「ミュージアムカ フェ設置検討委員会」を設置し、検討を行った。



改装したミュージアムショップ

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・ミュージアムショップの来店者数調査及び意識調査を行ったことにより、今後の商品の充 実や改善を図るための基礎データを得る事が出来たため、来年度以降に活用することが出
- ・ミュージアムショップのリニューアルにより、お客様からは「商品陳列がわかりやすくな り、商品を見ながらゆっくり買い物ができるようになった」など好意的な意見が多く寄せ られている。
- ・今後も、ミュージアムショップやレストランと連携協力を図りながら、利用者のニーズを より適切に反映できるよう努めていく必要がある。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
			_	

中期計画期 間における進 捗状況

(3) 快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等の改善(2/4 ページ目) 京都国立博物館(1/1 ページ目)

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号

1402

中項目 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名 快適な観覧環境の提供

③ ミュージアムショップやレストラン等の改善

事業概要 ミュージアムショップ、レストランの質、サービス向上を図る

事業責任者 総務課長 担当者 担当部課 総務課 大西真一

実績·成果

・当館の観覧者サービスの一環として欠かせないものとし てミュージアムショップやレストランがある。これら の運営は、当館が主体となって運営すべきであるが、 人員や財源等の問題から長年に亘って外部業者に委託 を行っている状況にある。

【ミュージアムショップ】

- ・絵はがき販売総数は288種類におよび、そのうち当館所 蔵品をデザインとして監修した絵はがき数は 124 種類 に上っている。
- ・オリジナルグッズの新規制作である和服柄のハンカチを 小袖風に折りたたんだものは、一般観覧者に好評であっ た。



ミュージアムショップ

- ・展覧会ごとに関連グッズや関連書籍等を取り揃え、利用者へのサービスを行った。
- ・博物館に足を運ぶことが出来ないお客様には、通信販売でも対応した。

【レストラン】

- 季節に応じたメニュー(おぜんざい)を取り扱うことで利用者へのサービスを図った。
- ・新メニュー(カツサンド・ピザトースト)を増やす等、利用者の要望に応えた。
- ・これらは、レストランを利用した人達のアンケート調査を元に改善したものである。
- ・利用者と直に接するミュージアムショップやレストランの従業員を対象とした接客研修を 行った。

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・博物館のミュージアムショップやレストランは、利用者にとって快適に過ごせる時間と空 間、さらにやすらぎの場でもあるので、より充実を図っていく必要がある。
- ・オリジナルグッズは現在5種類あるが、ワンコイン料金(500円、100円等)の商品を拡充し、 利用者の利便性を向上させていくことを検討する。
- ・京博は外国人の来館者も多いので、今後、和風を基調とした商品を拡充させるなど、ニー ズに対応していきたい。
- ・特別展覧会には、図録を発行するが、季節に応じた特集陳列等の小規模な展示についても カタログ発行要望が多く寄せられている。価格設定を安くするなどして対応可能かどうか 検討していきたい。
- ・レストランメニューに、京都で取れる食材(京都ブランド)を使用した京ならではの料理 を、利用者に提供する新規メニューの開発を検討したい。
- ・レストランにおいて、京博の名物オリジナルメニューを開発するなど、館外へのアピール を図りたい。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期 間における進 捗状況

(3) 快適な観覧環境の提供 ③ ミュージアムショップ・レストラン等の改善(3/4 ページ目) 奈良国立博物館(1/1 ページ目)

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号

1403

中項目 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名

- 快適な観覧環境の提供
 - ③ ミュージアムショップやレストラン等の改善

事業概要

ミュージアムショップやレストラン利用者へのアンケート調査を実施し、調査結果を踏まえ、 関係者とも協議し、利用者サービスの向上に努める。

担当者

担当部課 総務課渉外室 事業責任者 | 渉外室長 植田義雄

実績·成果

- ・レストランメニューをリニューアル (セットメニューの充 実)
- またレストランメニューの一部につき学割制を明記した。
- ・昔なつかし駄菓子屋さんコーナーを、夏休みに合わせ子供 等の入館者増加を目指し、入場無料ゾーンの地下回廊で実 施
- ・「正倉院展」では常設のレストラン及びミュージアムショ ップ以外に、敷地内に飲食店及びおみやげ店が出店



昔なつかし駄菓子屋さん



敷地内出店及び休憩所

定性的評価 (目標に対す る成果の達成 状況)

- ・レストランは昼食時利用が多いことを考慮して、セットメニューを充実させた。また、セ ットメニューの一部を学割(高校生以下)にし、利用者サービスに努めた。
- ・オリジナルグッズの新規開発は、昨年度開発したグッズ 4 点の売れ行き状況を観測中のた め、今年度は実施しなかった。今後も利用者のニーズに合うグッズの調査及び開発を目指 す。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期 間における進 捗状況

(3) 快適な観覧環境の提供 ③ ミュージアムショップやレストラン等の改善(4/4 ページ目) 九州国立博物館(1/1 ページ目)

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号

1404

文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 中項目

事業名

- (3) 快適な観覧環境の提供
- ③ ミュージアムショップやレストラン等の改善

事業概要

展示内容に関連したミュージアムショップやレストランの運営に努めた。

担当者 担当部課 広報課 事業責任者 広報課長 石橋 和夫

実績·成果

文化交流展の展示替えに合わせて、ミュージアムショップ の商品陳列を見直し、レストランでは特別展に関連したメニ ューを提供した。

○特別展関連メニュー

- ・「未来への贈りもの」では、現代を生きる私たちが忘れ かけている季節感のある素材を活かした未来に残した い2つの料理を提供した。(春野菜のトマトスープパスタ、野菜 カレー五穀入りライス添え)
- 「本願寺展」では、京都にちなんだ料理を提供した。 (京風 松花堂弁当、京風 にしんそば)
- ・「京都五山 禅の文化」では、京都にちなんだ料理を提供 した。(京風 松花堂弁当、京風 にしんそば、山椒風味 白タンタン麺、抹茶クリームぜんざい)
- ・「国宝 大絵巻展」では、絵巻をイメージさせる料理を提 供した。(春のおすすめランチ、日向金柑のムース糸島 ジェラートと共に)



季刊情報誌アジアージュに掲載した 「本願寺展」に関連したメニュー

定性的評価
(目標に対す
る成果の達成
状況)

展示内容に関連づけて、ミュージアムグッズや食事の面でも多様な楽しみの機会を提供で きた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期 間における進 捗状況